

---

# 障がい者とアート活動による 障がい者理解と障がい者の自己実現の 効果検証調査レポート

---

日本財団 2024年度 通常助成事業「障害者とデザイナーの協働によるフォントデザイン事業の知見の共有と周知」



# 目次

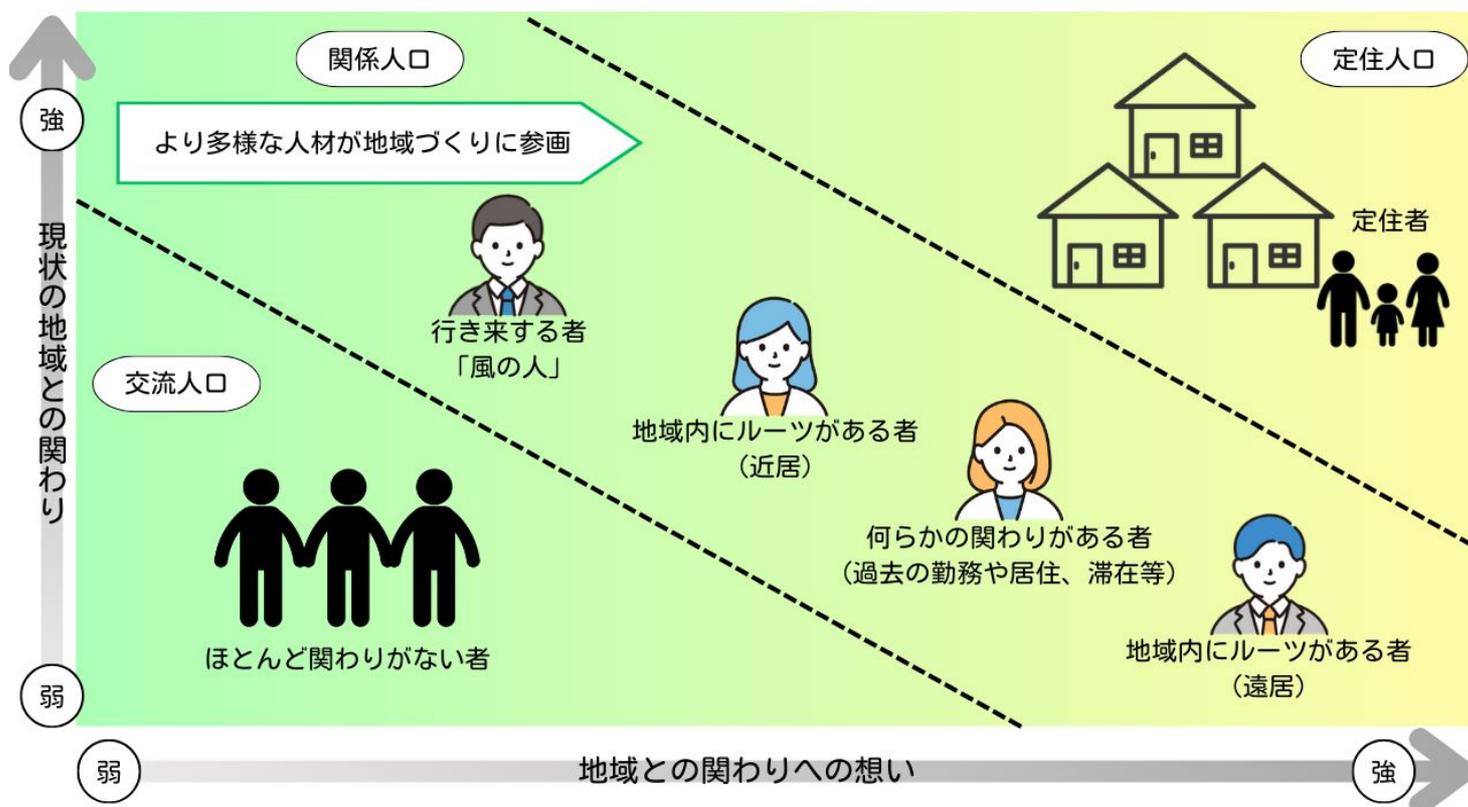
---

- 1、調査目的
- 2、調査方法と調査内容
- 3、調査対象
- 4、調査結果 1)障害者との関わりについて
- 5、調査結果 2)シブヤフォント、ご当地フォント事業における満足度
  - ・アンケート調査実施対象者
  - ・満足度の定量評価
  - ・満足度の評価コメント
  - ・参加意向の定量
  - ・参加意向の評価コメント
- 6、調査結果 3)シブヤフォント、ご当地フォントに関わった方々の変化
  - アーティスト
  - 学生
  - デザイナー
  - 支援員
  - 企業・プロボノ等
- 7、調査結果 4)先端事例における障害者のアンケート調査
- 8、まとめ

# 調査目的

本調査は、障がい者とのアート活動を通じて、障害者理解と自己実現の効果を検証し、実践方法を体系化・マニュアル化することを目的とします。そして、全国の地域で調査・分析を行い、エビデンスに基づく取り組みを展開することで、活動の質と広がり担保します。

「福祉の関係人口」を全国規模で増やし、障害の有無を越えて共に生きる実感を持つ人を増やし、その結果、障害者理解にとどまらず、他者理解が根付く共生社会の基盤を育みます。また、活動に関わる多様な立場の人々の変化し、成長していく「へんしん」のプロセスを大切にします。最終的には、地域発の共創モデルが日本全国に広がることを目指します。



上図:関係人口について

「福祉の関係人口」とは、福祉の専門職や当事者だけでなく、地域住民や企業、学生、デザイナーなど、福祉に継続的・多様に関わる人々を指します。一時的な支援にとどまらず、創造的な関わりや共創を通じて、福祉を“自分ごと”として捉える人を増やすことを重視しています。

その関係人口の拡大は、福祉現場の活性化だけでなく、地域社会全体の包摂力を高めることにつながります。また、関わる人それぞれに気づきや変化(=へんしん)をもたらし、共生社会の実現に寄与します。福祉を特別なものではなく、日常に溶け込む文化として根付かせるための鍵となる考え方です。

# 調査方法と調査内容

---

2024年5月～2024年10月にご当地フォント参画地区(18地区)と一部先駆的な取り組みをしている地区にアンケートとグループインタビューを実施

アンケート、インタビュー内容については、活動内容と障がい当事者の気持ちの変化や障がい者に関わる事での変化を中心に実施

## 調査対象

---

- ・障がい当事者および家族／支援者のアンケート n=109
  - ・障がい当事者および家族／支援者のインタビュー n=20
  - ・デザイナーおよび学生に対して、交流／参加前後での変化のアンケート n=28
  - ・デザイナーおよび学生に対して、交流・参加前後での変化のインタビュー n=10
  - ・シブヤフォント、ご当地フォント採用企業／団体／自治体に対して採用前後での社内外の変化のアンケート n=26
  - ・シブヤフォント、ご当地フォント採用企業／団体／自治体に対して採用前後での社内外の変化のインタビュー n=10
  - ・エピソード詳細ヒアリング n=5
  - ・他類似事例に対して実施内容と効果のアンケート n=26
  - ・他類似事例に対して実施内容と効果のオンラインインタビュー n=5
  - ・他類似事例に対して実施内容と効果のインタビュー n=6
  - ・シブヤフォントに関する意識調査 渋谷区 LINE公式アカウント n=4,148、イベント n=243
- 合計 n=4,625

## 調査結果(1)

### 障害者との関わりについて

---

実施方法: アンケート

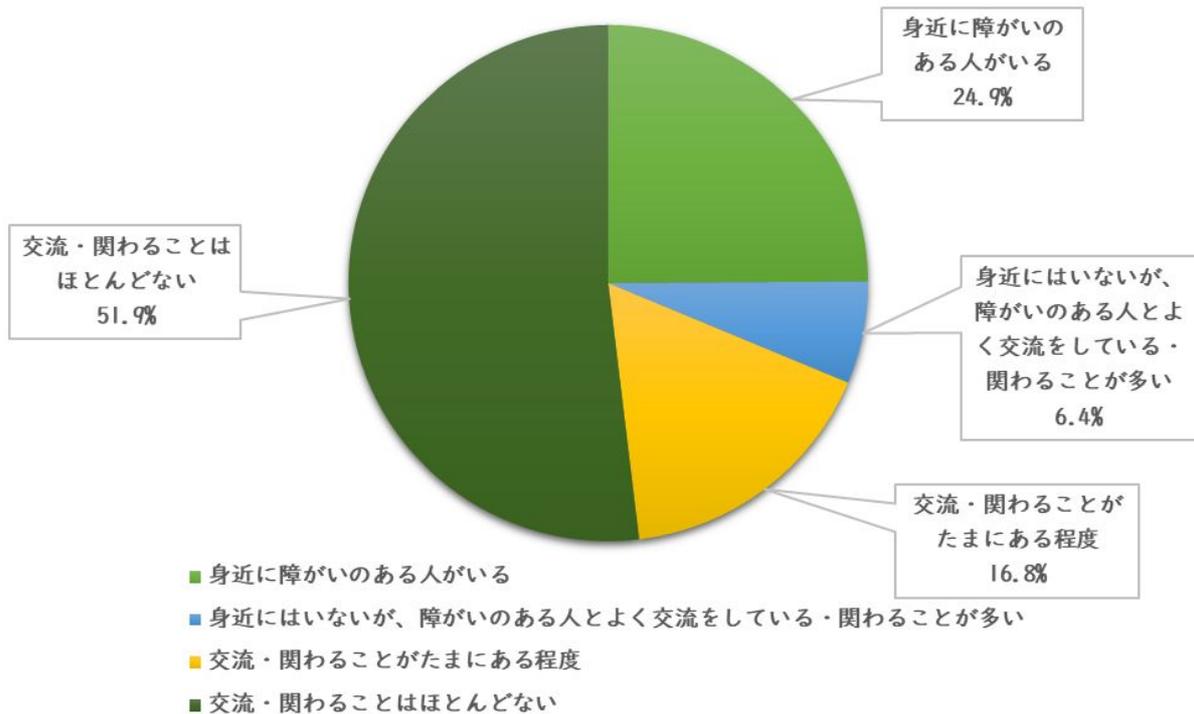
対象: 渋谷区民

協力: 渋谷区

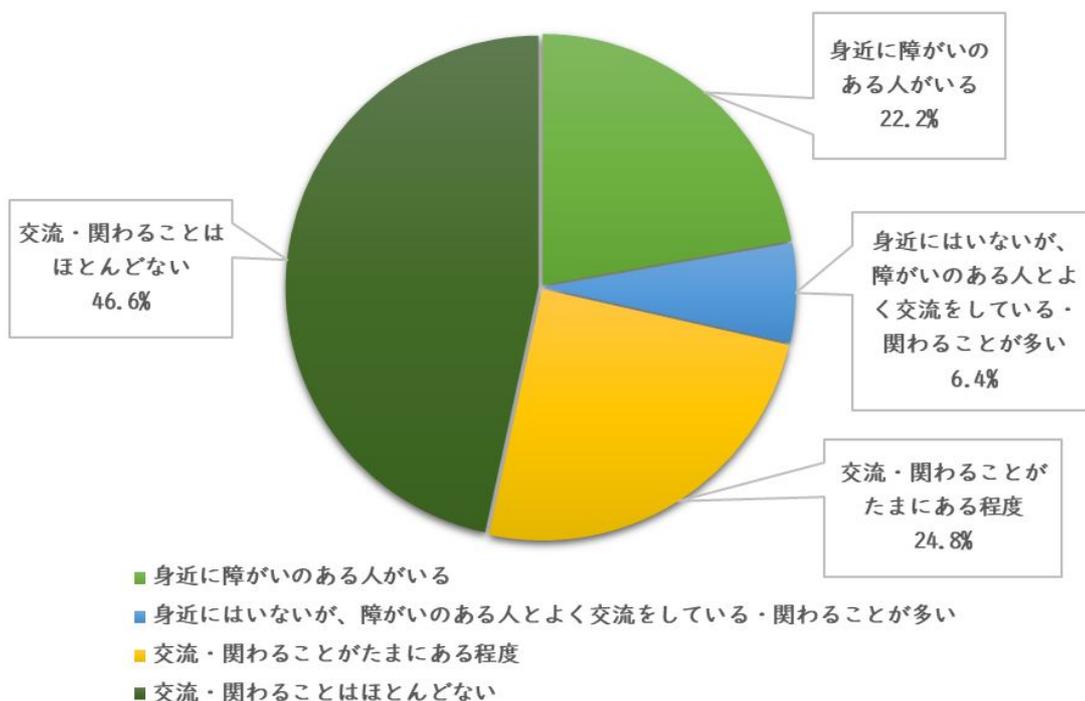
# 障がい者との関わり

## ■全国での調査結果

※大阪市立大学大学院生活科学研究科  
野村恭代准教授の研究結果から引用

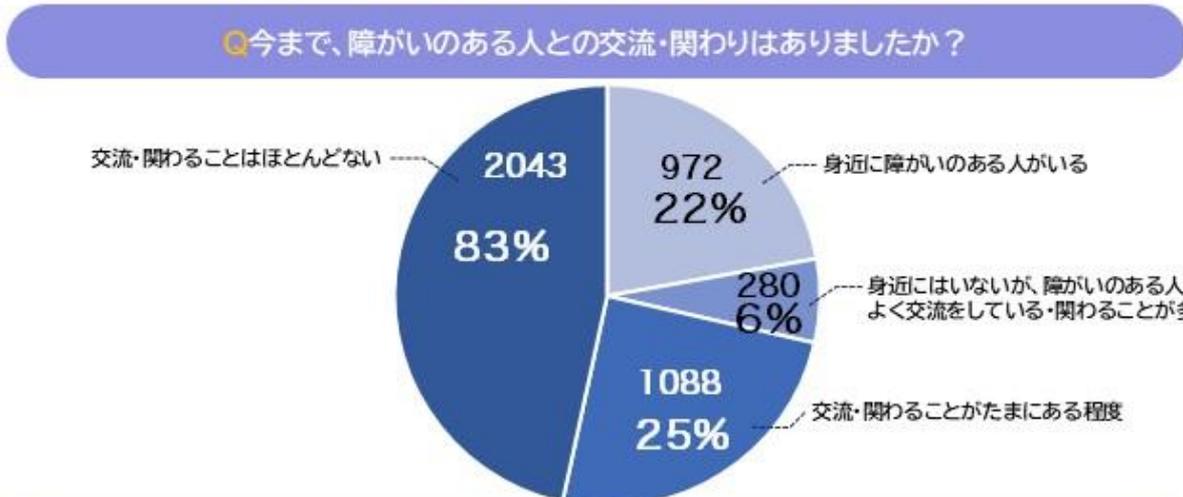
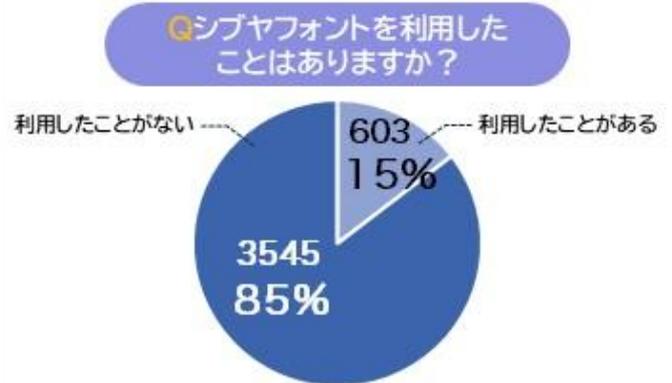
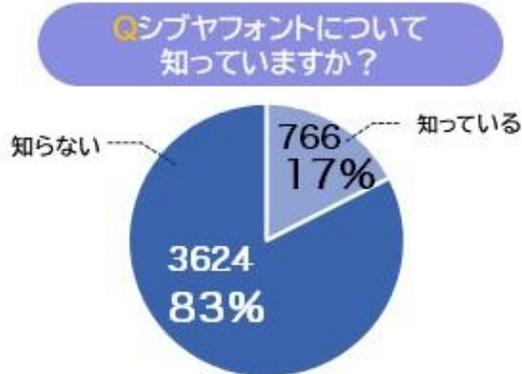
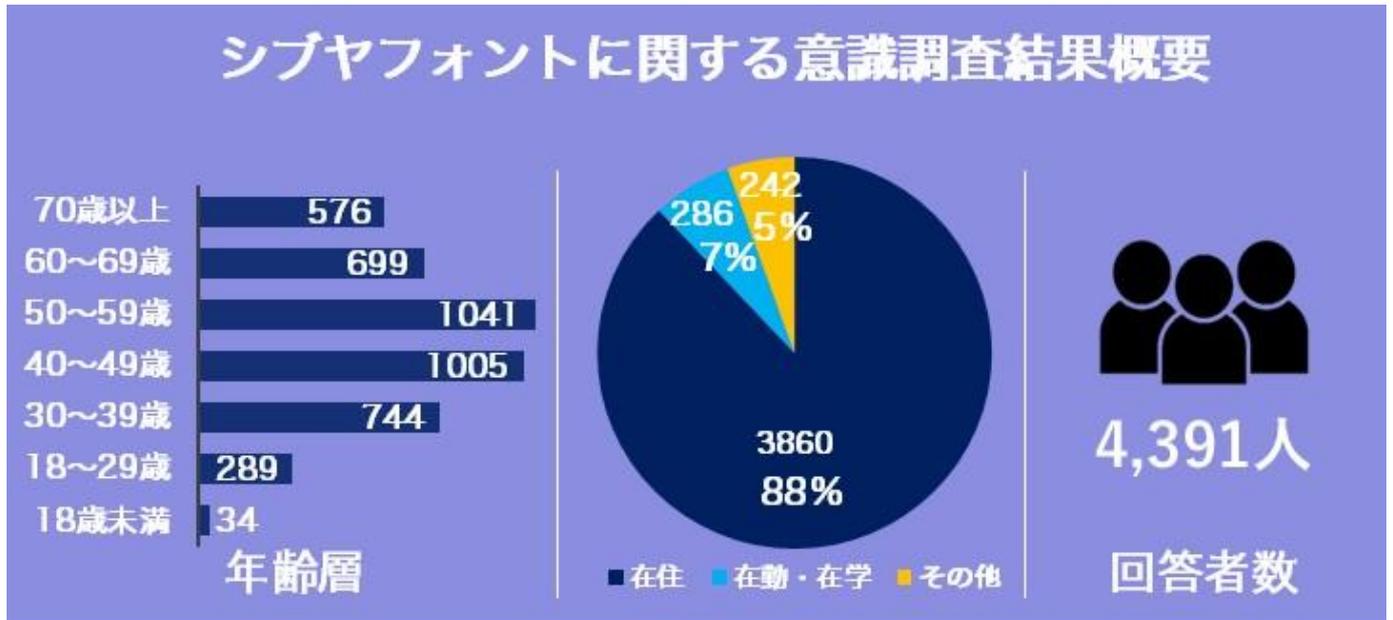


## ■渋谷区での調査結果



# 障がい者との関わり(渋谷区内の調査レポート)

渋谷区による区民向け LINE 調査 (n=4,148) と渋谷区内イベントでの記入アンケート ( n=243) 合計 n=4,391



### Qシブヤフォントの印象について

シブヤフォントはおしゃれで独創的なデザインが多く、障がい者の才能を活かす取り組みとして評価する意見が多く寄せられました。一方で、利用方法の不明確さや認知度の低さ等に課題があると感じる意見も多く、今後の周知、広報活動の改善などが求められています。

## 調査結果(2)

### シブヤフォント・ご当地フォント事業における満足度

---

実施方法: アンケート、インタビュー

対象 : アーティスト、支援員、ご家族、学生、  
デザイナー、他

# アンケートシート設問内容

---

調査のために、下記の設問をアンケート形式で実施

## 設問内容

Q. 「シブヤフォント」「ご当地フォント」の活動の参加について、あなたの感想をどのようなことでも結構ですので、ご自由にお書きください

Q. 「活動の中で特に印象に残ったエピソードを3つまで、ご自由にお書きください。

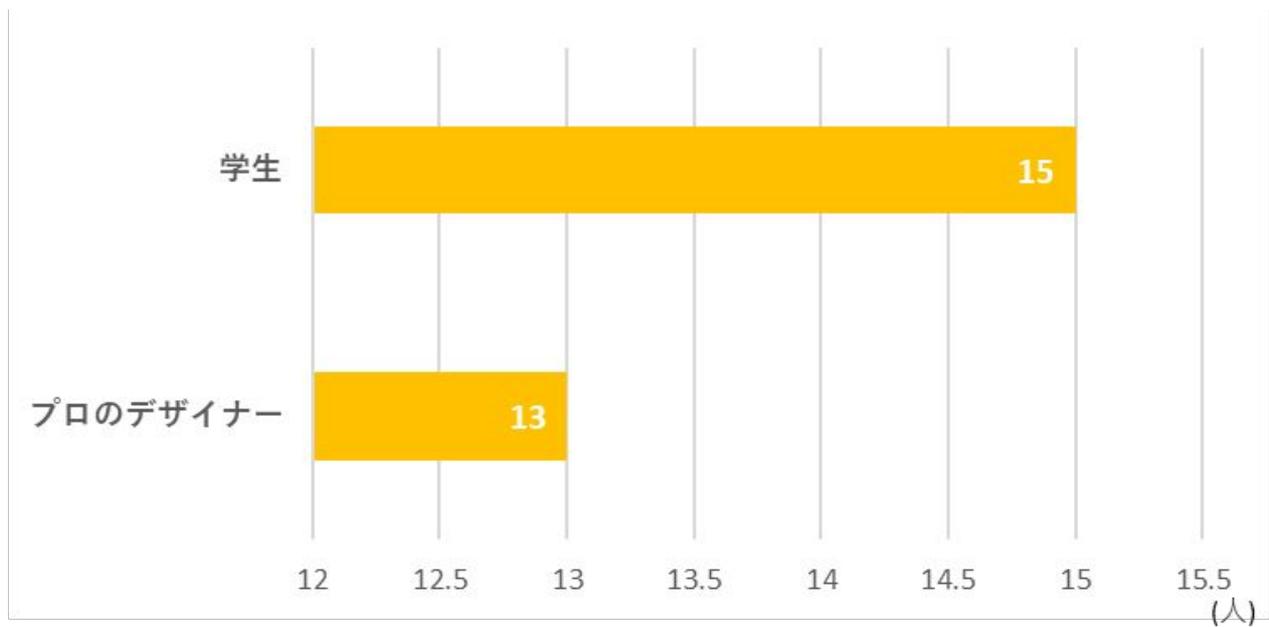
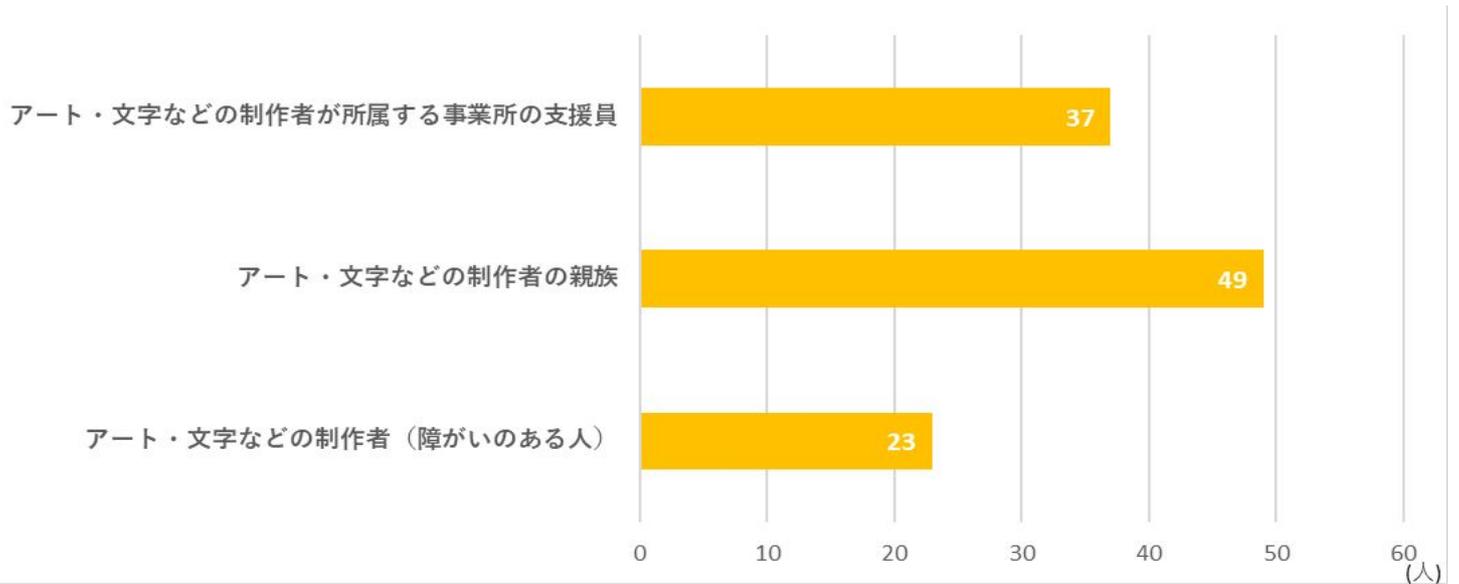
Q. この活動をきっかけに、福祉関連以外で、新たに交流した人を教えてください。以下の中で、新たに交流した人をいくつでもお選びください。

Q. 「この活動や色々な人との交流を通して、あなたご自身の心理的な変化や、日常の生活や仕事において新たに行動するようになったことはありましたか。どのような変化があったか、その理由などをご自由にお書きください。

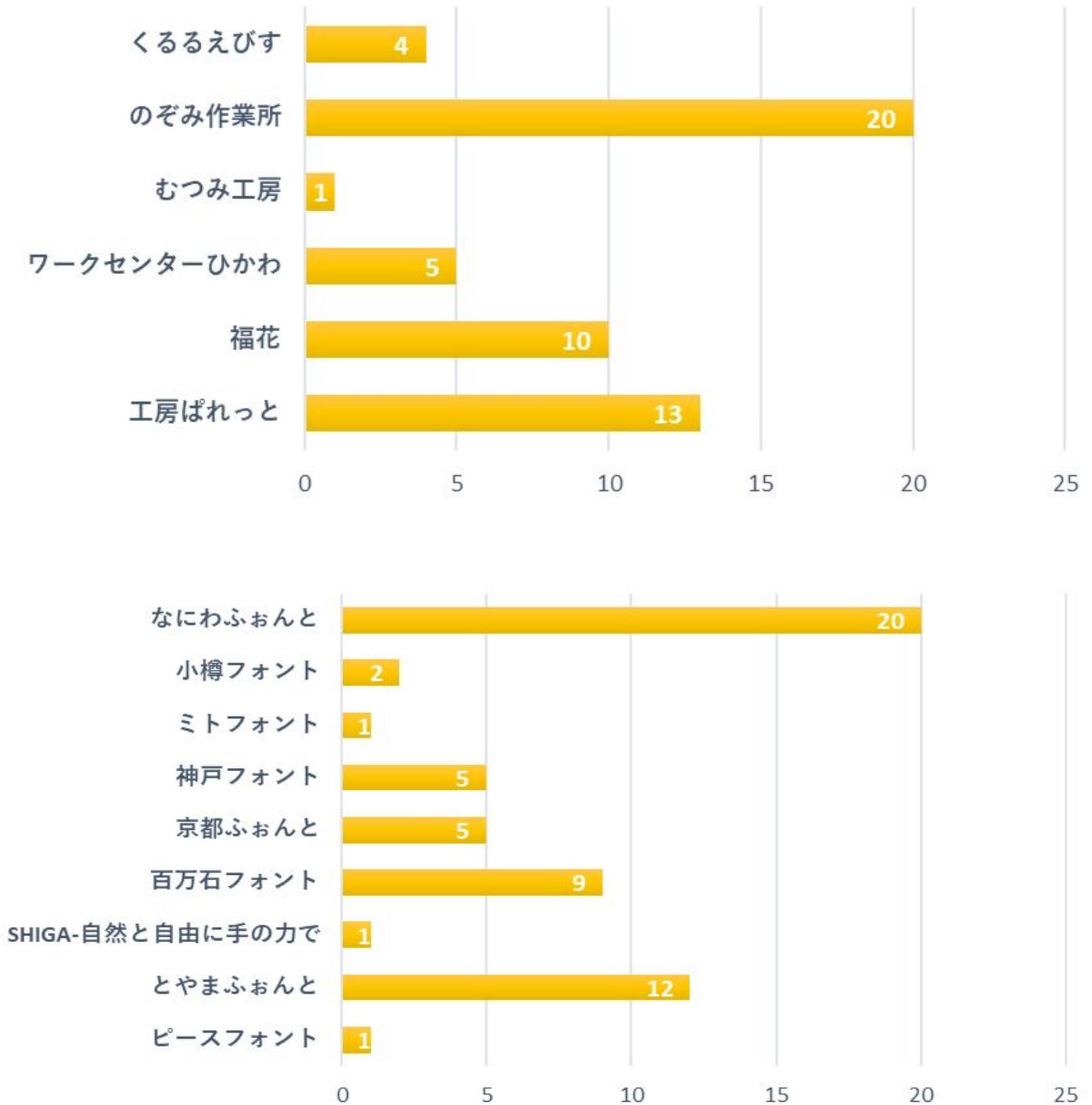
Q. 「シブヤフォント」「ご当地フォント」の活動全体について、どの程度満足されていますか。

Q. 「シブヤフォント」「ご当地フォント」の活動にまた参加したいと思いますか。

## Q1. 活動における立場



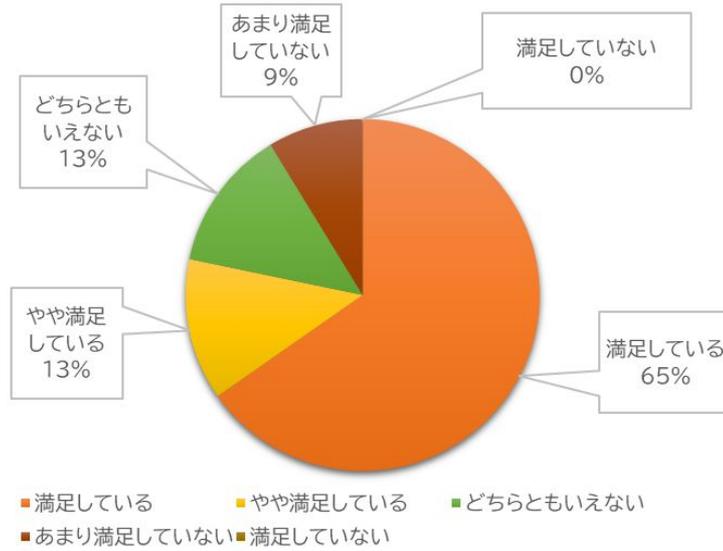
## Q2. 所属の施設・団体



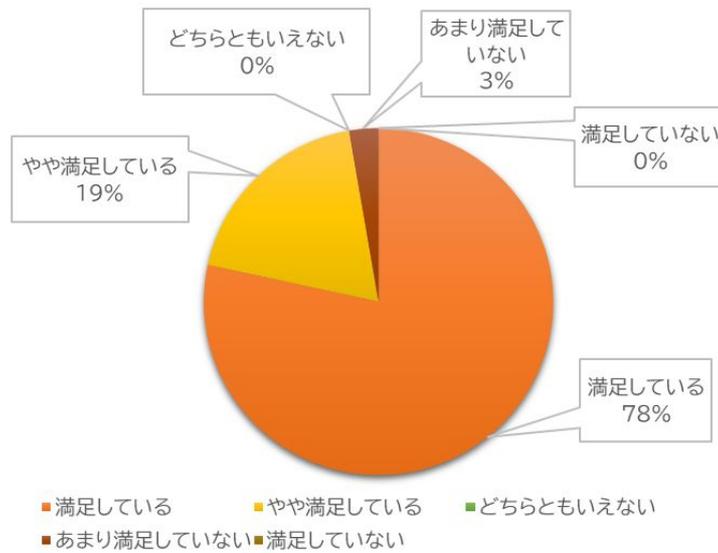
# シブヤフォント・ご当地フォントにおける満足度の定量評価

アンケート調査結果より、アーティストについては、あまり満足していない方は一定数いるものの、支援員・家族については、満足度は高い結果となっている

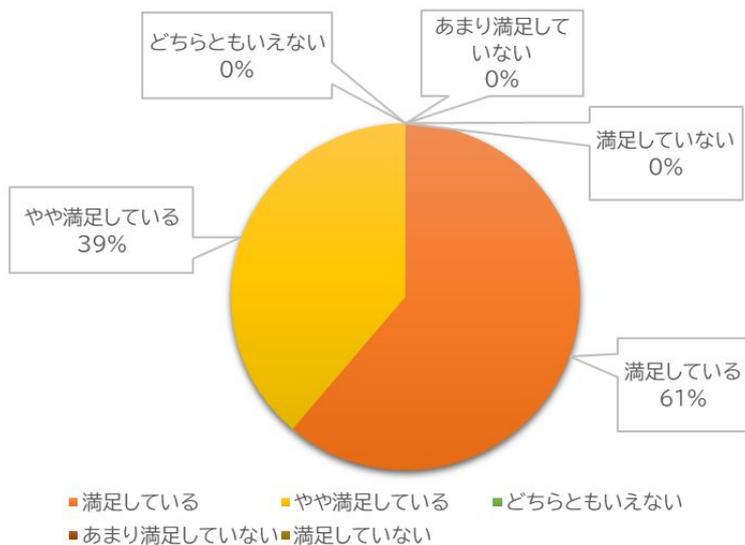
## アーティスト



## 支援員



## ご家族



# シブヤフォント・ご当地フォントにおける 満足度の評価コメント

## アーティスト

### 満足度が高い

描いた絵がグッズになるとまたイメージが少し変わるという事を見れたのが良かった。

渋谷区におけるデザイナーの一員になれる絶好のチャンスをいただいた気分。

### 満足度が低い

どんな団体かわからずに参加していた。

自分の作品をTシャツにしてもらったので良かったです。もう少し可愛くなれば良かった。

## 支援員

### 満足度が高い

障がいのあるメンバー達の才能や魅力を広く発信できることが嬉しいです。シブヤフォントの活動をメンバー達が楽しむ姿や努力する姿を一番近くで見守れることが喜びです。もちろん、日々の業務に加えてシブヤフォントの活動をするのには時間的、人力的に大変な部分もありますが、大変な思い以上に返ってくるプラス面(活躍機会、交流機会、売上、スタッフ & メンバーの成長、家族の喜び)が大きいと感じています。

真っ直ぐに線を描けないことでそれまで絵を描くことをコンプレックスとしていたメンバーが、自分の描く線が強みであるという気づき一緒に体験できた

数ある障害者アートの活動でもさすが渋谷！ならではの洗練された作品が多いのに驚く。各企業、建物等への提案で実現しているのも素晴らしい

### 満足度が低い

評価コメントなし

## 家族

### 満足度が高い

障がいのある娘がシブヤフォントに参加させていただいたことによって、本人の作ったものが「作品」として認められ、それを本人が誇りに思い、ものを作る意欲と自信、そして何よりも喜びを抱いたことをとても嬉しく感じます。

シブヤフォントの皆様とデザイナーの方々、また娘が普段仕事をしている福祉事業所の人たちに支えられつつ、こうした機会を与えられたことは、娘にとって自らが社会になんらかの影響で貢献できる糸口になり、深く感謝しています。

本人が描いたり制作したものがさまざまな商品になって使われることがとても嬉しく思います。

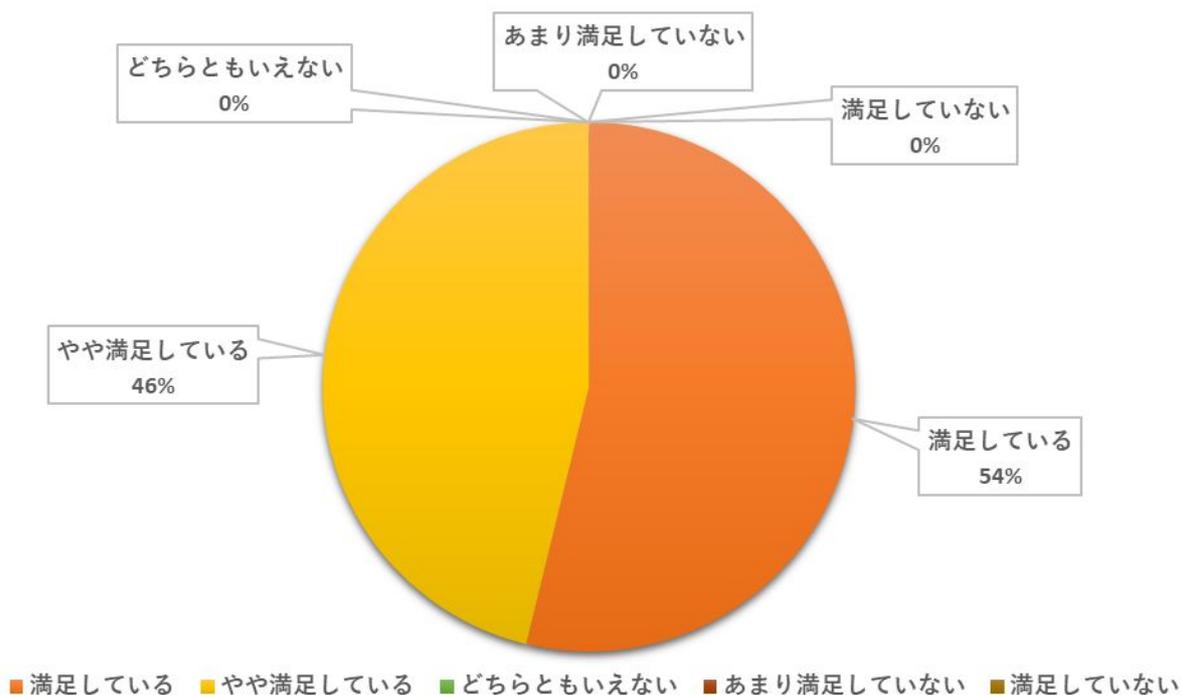
### 満足度が低い

評価コメントなし

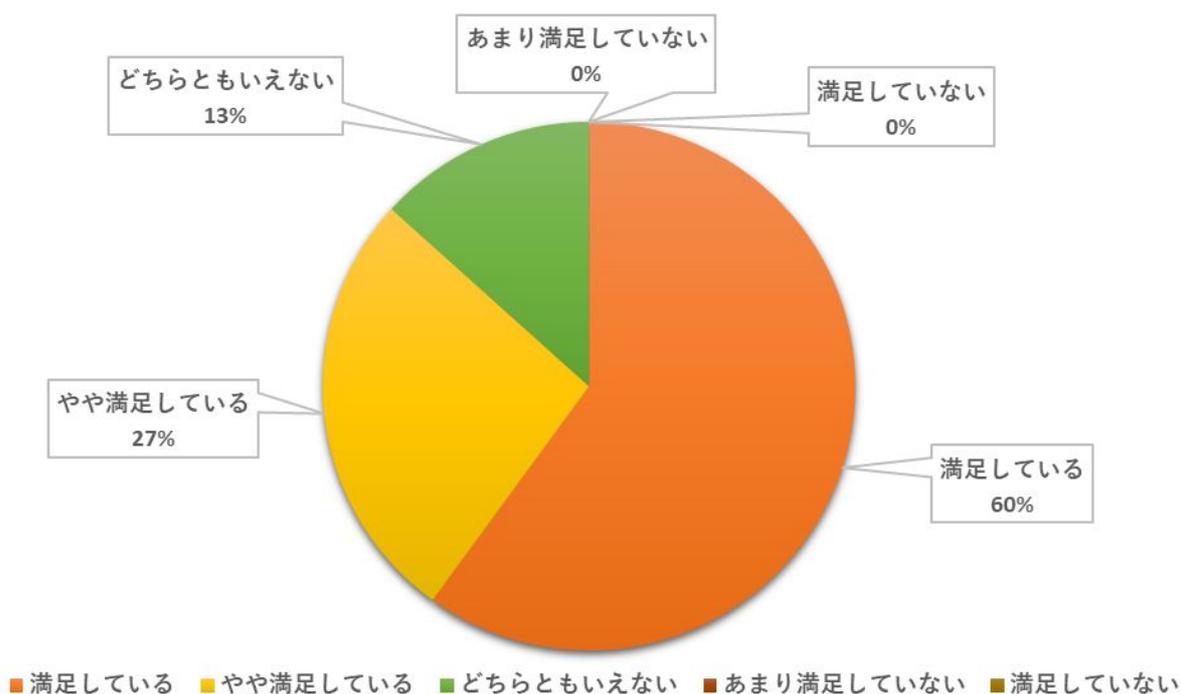
# シブヤフォント・ご当地フォントにおける満足度の定量評価

アンケート調査結果より、学生では”どちらともいえない”という結果が一定数いるものの、デザイナーについては満足度は高い結果となっている

## デザイナー



## 学生



# シブヤフォント・ご当地フォントにおける 満足度の評価コメント

## デザイナー

### 満足度が高い

障害のある方々と触れ合うことで気づかされることが多くありました。障害のある方をカテゴリー付けていた自分。人間力が試されているような気がしました。事業所の方々とも連携して作業することが新鮮でした。そしてなりよりとても喜んでいただけたことがとてもうれしかったです。

パターンやフォントの作品を拝見しての第一印象は、「面白い！」でした。既製品ばかりの素材の中で、本当に自由な発想で描かれているのを見て、何の制約もなく自由に描くということはこういうことなのかな？と改めて感じました。様々な制約の中でデザインワークをしていましたが、少し肩の力を抜いてやっていこうと思うようになりました。

施設の方の才能が埋もれていることや知られてないことがもったいないと感じた。彼らの魅力(サポートのスタッフの方も含めて)をもっと知ってもらいたいと思うようになった。

障害のある方とのふれあいの中で、その存在の愛に触れ、癒されました。

### 満足度が低い

評価コメントなし

## 学生

### 満足度が高い

普段関わることのあまりない障がい者の方たちとアートワークをするのが楽しいと感じました。自分のデザイン力の向上と社会貢献を同時にできるので参加してよかったと思っています。

デザインが好きなのでそれがきっかけで参加したのですが、0から作るのではなく、他人のデザインを改良して作っていくことが新鮮で面白かったです。

改めて障がいを持った方々との連携を行うことで、人とのつながりや福祉の世界にきづく良いきっかけになりました。

大変だったけど、やりがいや達成感がちゃんとあって楽しかった。また、施設の方たちと仲良くなれて繋がりができたので参加してよかったと感じている

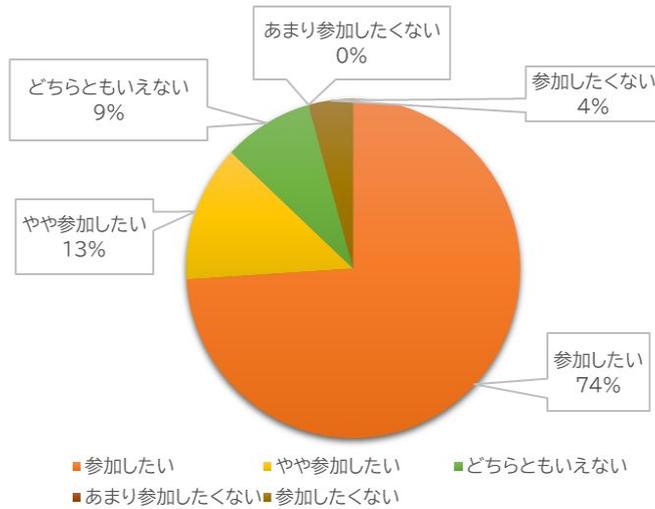
### 満足度が低い

評価コメントなし

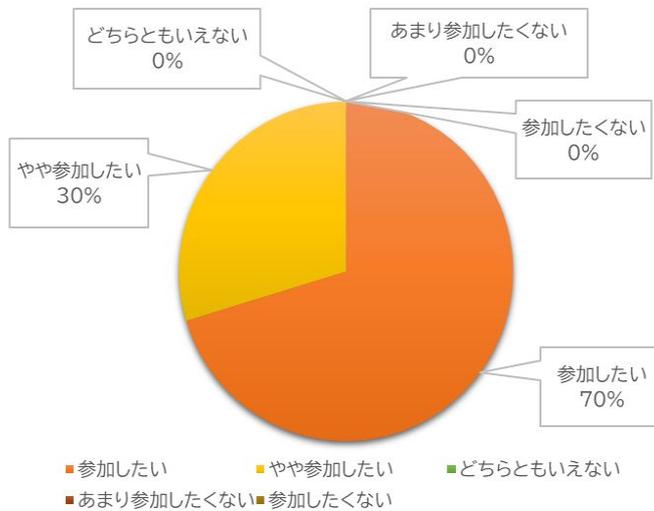
# シブヤフォント・ご当地フォントにおける 参加意向の定量評価

アンケート調査結果より、アーティストについては、参加したくない方は一定数いるものの、支援員・家族の参加意向は高い結果となっている

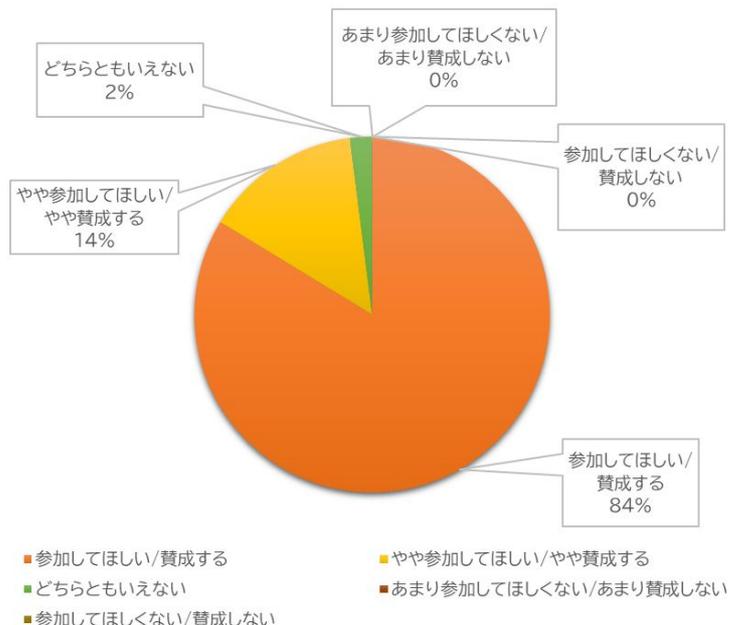
## アーティスト



## 支援員



## 家族



# シブヤフォント・ご当地フォントにおける 参加意向の評価コメント

---

## アーティスト

### 満足度が高い

元々絵を描くことが好きだったので活動に参加してよかった  
次にまた参加できるとしたらその時のイメージも つかめた。第一歩だった。

絵を書くのが面白いので今後も参加していきたい

### 満足度が低い

白紙の紙に絵を埋めるのが大変だった

## 支援員

### 満足度が高い

担当者、デザイナーさんのお陰で今、京都フォントの作品が少しずつ増えつつあります。実際に地元企業の HP やイベントチラシへの採用例もありました。心理的な変化や新しい行動はまだこれから感じるのだと思いますが、これからの展開にワクワクしている所です。

子供達にとっても有意義で、実際に出来上がった作品がとても素敵なので、もっと世の中全体に周知されてほしいと思います！

何度も打ち合わせを繰り返し、フォントやパターンとしてデザイン化され、格好よく、可愛く作品が生まれ変わったことに驚きました。さらにグッズ化され、利用者さんだけでなく、保護者の方にもとても喜んでいただきました。発表からまだ半年ですが、今後も公開作品を増やしていく予定です。なにわふおんとが社会とどう関わり、繋がりを持っていけるのか今後が楽しみです。

### 満足度が低い

施設の活動で下準備として何かをする事は無かった

## 家族

### 満足度が高い

シブヤフォントの取り組みは素晴らしいことです。これからも継続してほしいと願っています。

データ使用料の福祉還元、学生との交流は素晴らしい活動だと思います。今後も継続いただけるとありがたいと、家族は思っています。ただ、障がいのタイプによっては活動に参加することで少しばかりストレスを抱くこともあるようです。

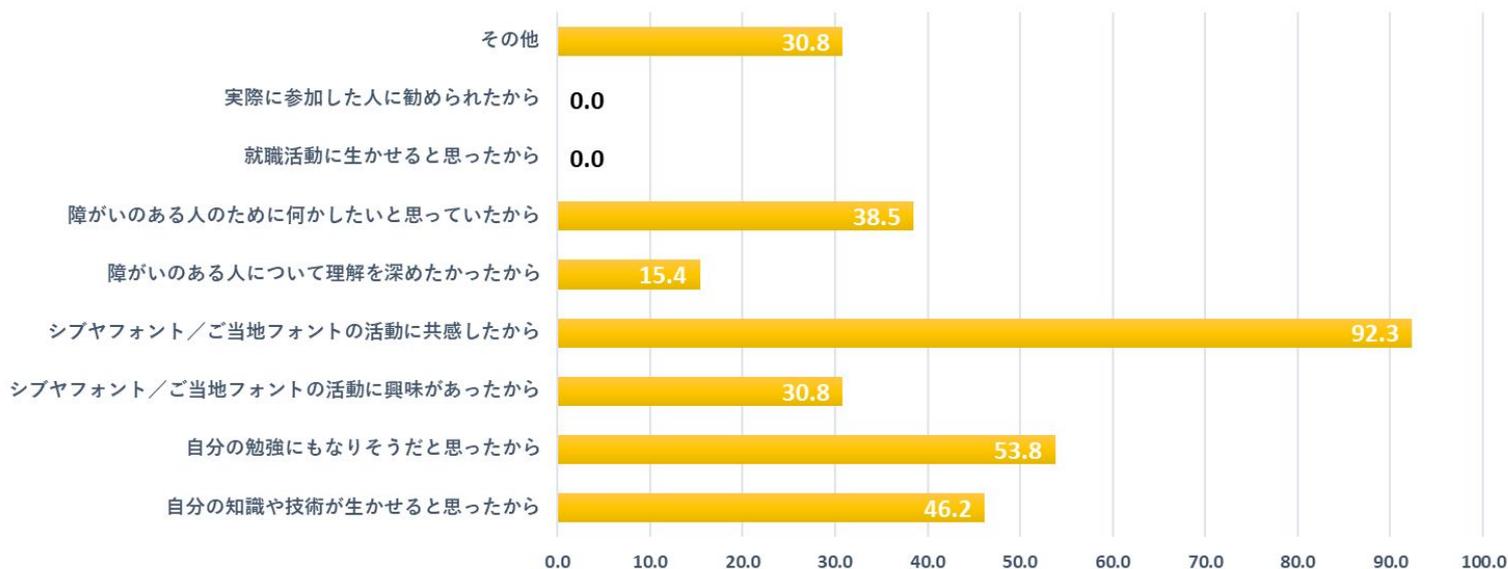
### 満足度が低い

評価コメントなし

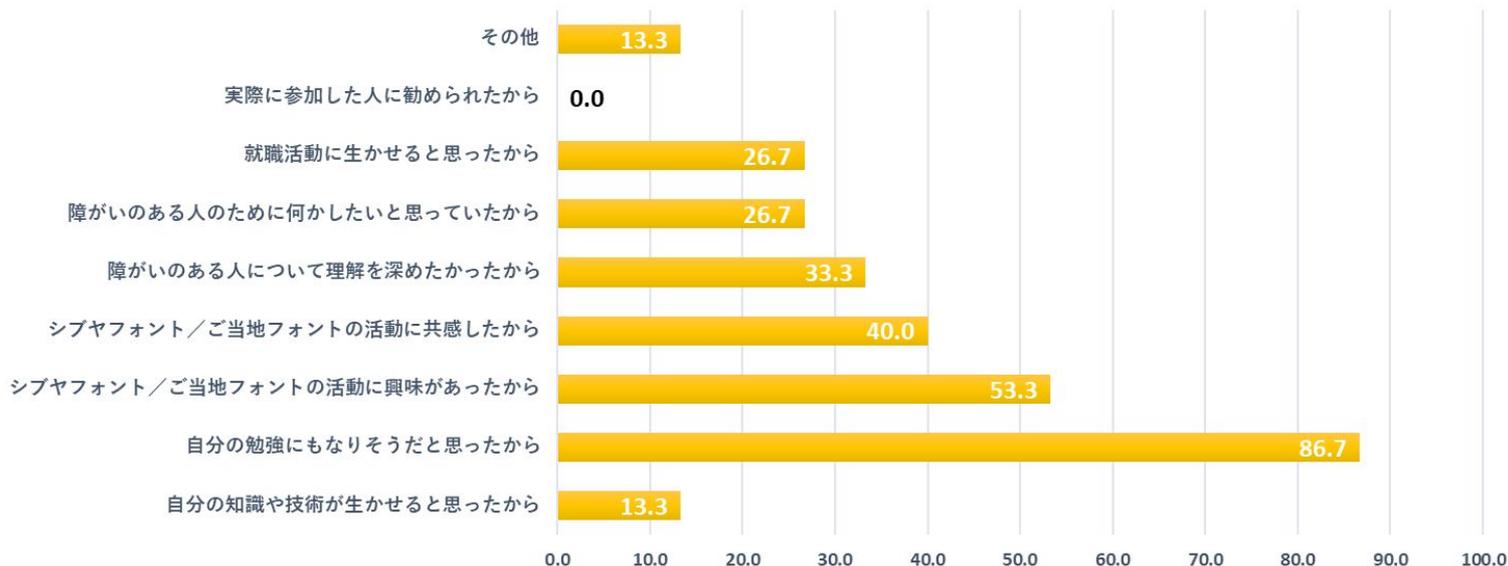
# シブヤフォント・ご当地フォントにおける 参加理由

調査時期: 2024年8月-9月

## デザイナー



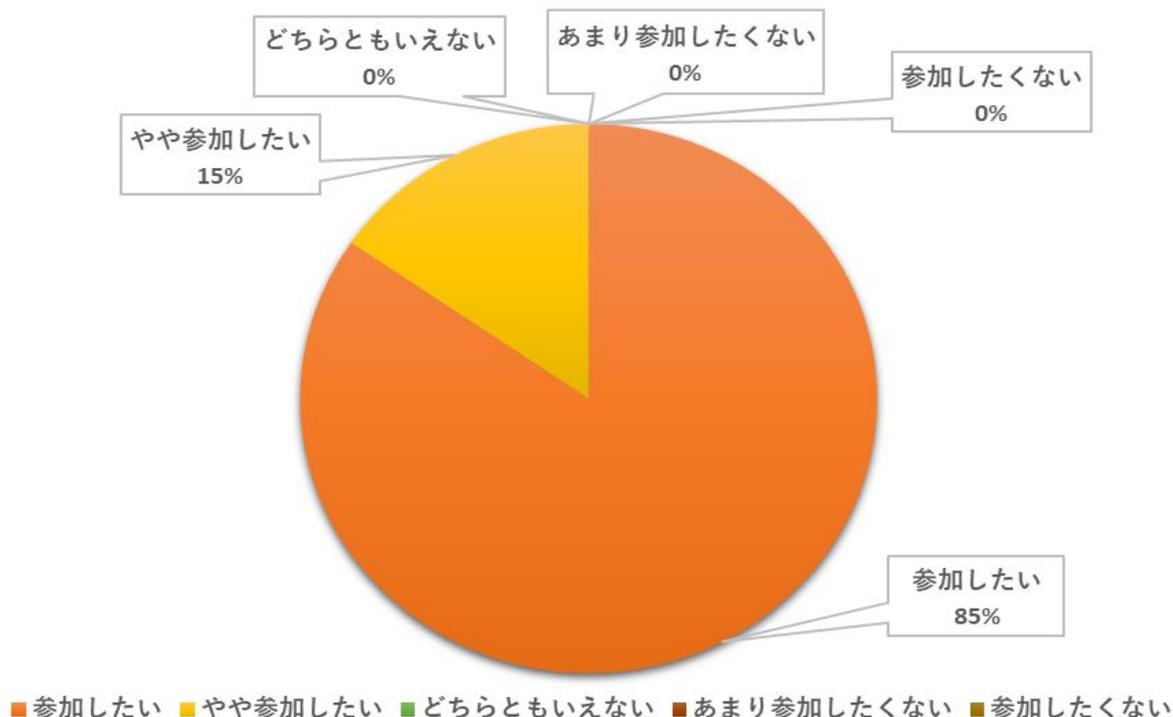
## 学生



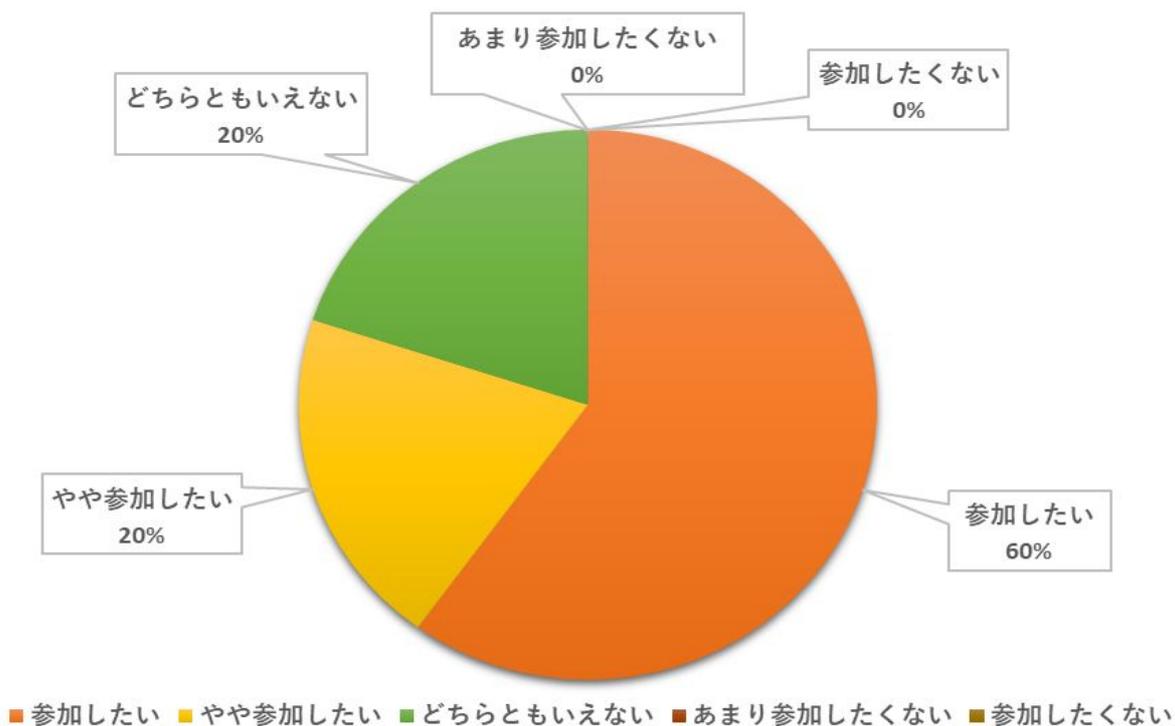
# シブヤフォント・ご当地フォントにおける 参加意向の定量評価

アンケート調査結果より、学生については、「どちらともいえない」という回答が一定数いるものの、デザイナーの参加意向は高い結果となっている

## デザイナー



## 学生



# シブヤフォント・ご当地フォントにおける 参加意向の評価コメント

---

## デザイナー

### 満足度が高い

地域の方々とも触れ合える機会がもっと増えればいいなと思いました。

デザイナーという強みを持って障害関わっていただけると思います。

交流の幅、他社への理解が深まることで、人と人とのつながりのハードルが低くなったと思う。

日常生活を送る中で障がい者と接する抵抗感がなくなる。また不安に思っている方へのフォロー等もできるようになる。

### 満足度が低い

評価コメントなし

## 学生

### 満足度が高い

今までフォトショップやイラストレーターを使ったことがなく、活動に参加するようになってから使い始めたのでこの技術は就職先でも使うことができると思いました。

社会貢献になると思うので、人と関わるときにいい印象をもたれると思います。

今まで、考えが薄かったアート思考やデザインにとても興味が出て、今後は「カラフルな世界」にしていくことを望んでいます。

どんなものでもアート、デザインになる  
どんなものでも表現方法として使えるという可能性は忘れずに生活して行きたいです。

### 満足度が低い

評価コメントなし

## 調査結果(3)

### シブヤフォント・ご当地フォントに関わった方々の変化

---

実施方法: アンケート、インタビュー

対象 : アーティスト、デザイナー、  
支援員、採用企業

協力 : シブヤフォント・ご当地フォント参加団体

## シブヤフォント・ご当地フォントに関わった方々の変化

---

アーティスト

# アーティストにおける変化

※アンケートの中から代表的なコメントをピックアップして記載

## 関わる前

もともと絵を描く事が好きだったので活動に参加

自分のパターンがTシャツに採用された！

ファッションショーに出演！

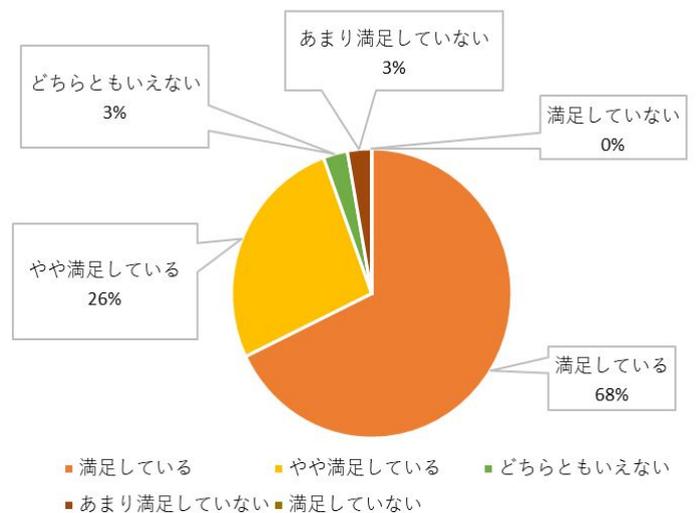
子供の頃、買い物や遊びに来ていた街。ショーに出れて良かった。色々と思い出を思い出した。

描いた絵がグッズになるとまたイメージが少し変わるという事を見れたのが良かった。

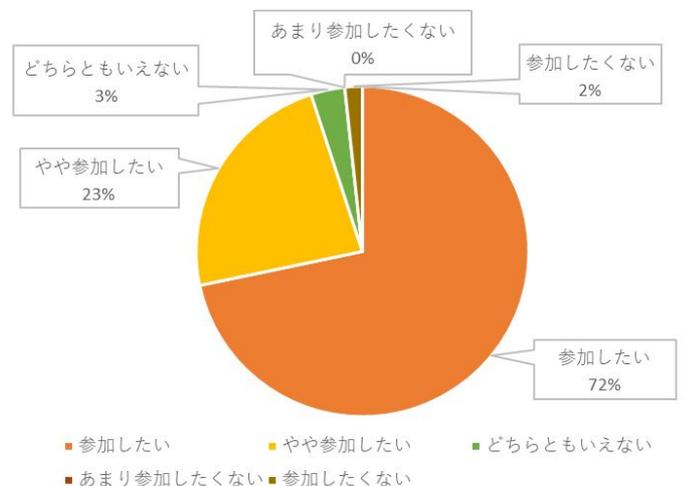
自分自身の生活は特に大きく変わっていないが、コロナの前に比べて、交流が活発になり、前より後ろ向きではなくなった。

今後も参加したい。

## 関わった後の満足度



## 参加意向



# アーティストにおける変化 アンケートシート

Q. この活動や色々な人との交流を通して、あなたご自身の心理的な変化や、日常の生活や仕事において新たに行動するようになったことはありましたか。どのような変化があったか、その理由などをご自由にお書きください

● 町や広告でフォントを気にするようになった。

● 色々な絵を見てアレンジできるようになりました。

● 親を喜ばせたいと思っていました。

● お金の持つ作品の価値を知れた。

● 新しい自分の作品を大切に扱ってもらってとても嬉しいです。

● 頑張って描いています。

● あくまでも障がい者枠ですが、仲良くなり楽しんでいるうちに成長していることに気がつきました。会話がより楽しめるようになってきています。  
今までしていたストレッチやフェイスマイクが楽しいもの変わったのはファッションやトーンや限度を考え、身だしなみや場の雰囲気を読むことに変化と進歩が見えてきています。

● 家で本とか漫画を最初見てたけど見なくても描けるようになった

● 自分自身の生活は特に大きく変わっていないが、コロナの前に比べて、交流が活発になり、前より後ろ向きではなくなった。

# アーティストにおける変化のストーリー

”新しい自分を発見する／自分の可能性を知る ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
子供と一緒に横断幕を作成した。	意外と自分が子供と仲良くなれることが分かった。	子供の筆を握る力強さからエネルギーをもらった。

”その他” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
子供と一緒に横断幕を作成した。	意外と自分が子供と仲良くなれることが分かった。	子供の筆を握る力強さからエネルギーをもらった。
フォントが採用されて言葉として成立したのが嬉しかった。		町や広告でフォントを気にするようになった。

## シブヤフォント・ご当地フォントに関わった方々の変化

---

学生

# 学生における変化

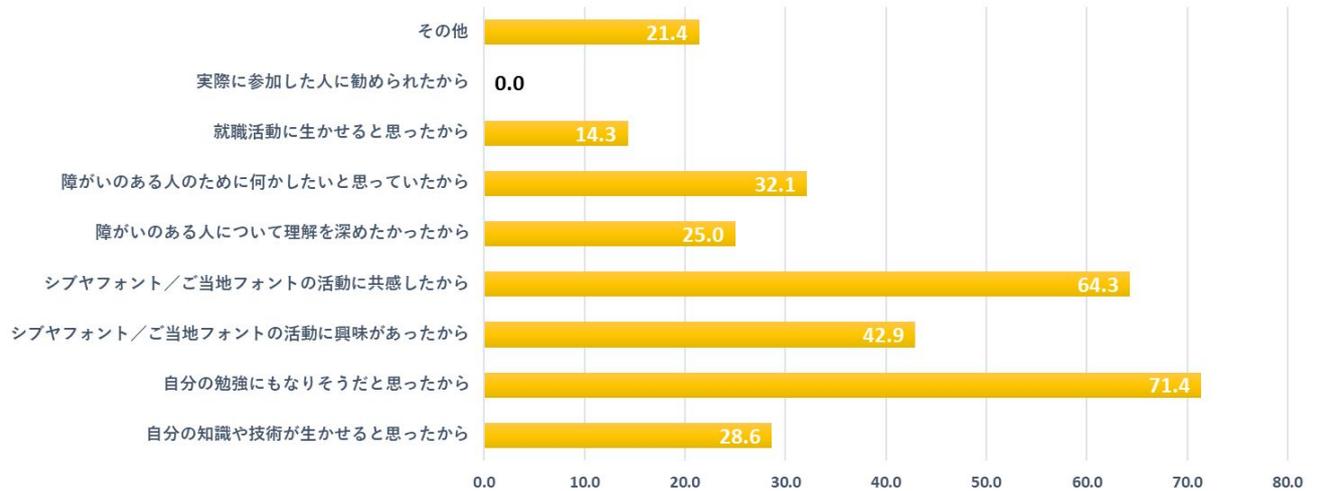
※アンケートの中から代表的なコメントをピックアップして記載  
関わる前

障がいのある方に対する知識があまり無かった  
今まで障がいのある方との交流が全くなかった

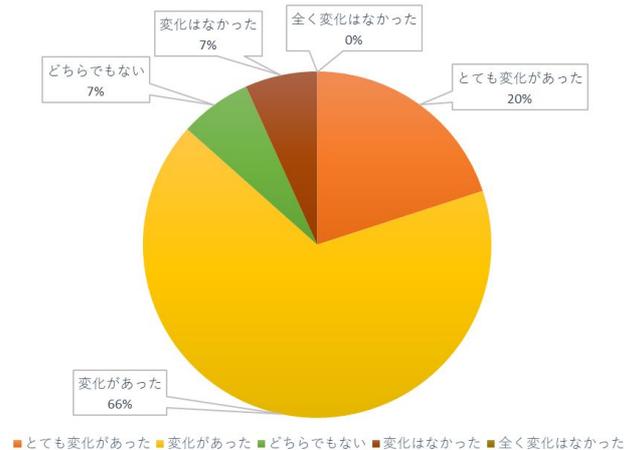
障がいの有無に関わらず、よりフラットな気持ちで他者とコミュニケーションを取ることを心がけるようになりました

障がいのある方を見ないものとして離れて生活するのではなく、その性質や性格を自然と受け入れられるような世の中に少しでも変えていきたいです。  
また関わる機会があった際には積極的に関係を築いていきたいと思いました。

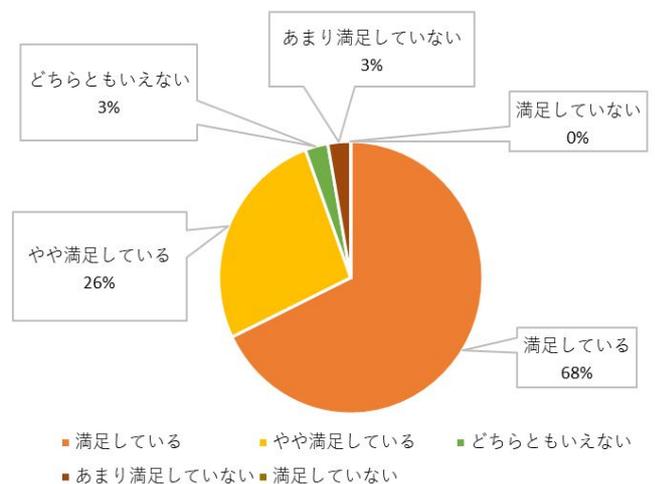
## 参加理由



## 活動参加後の変化の傾向

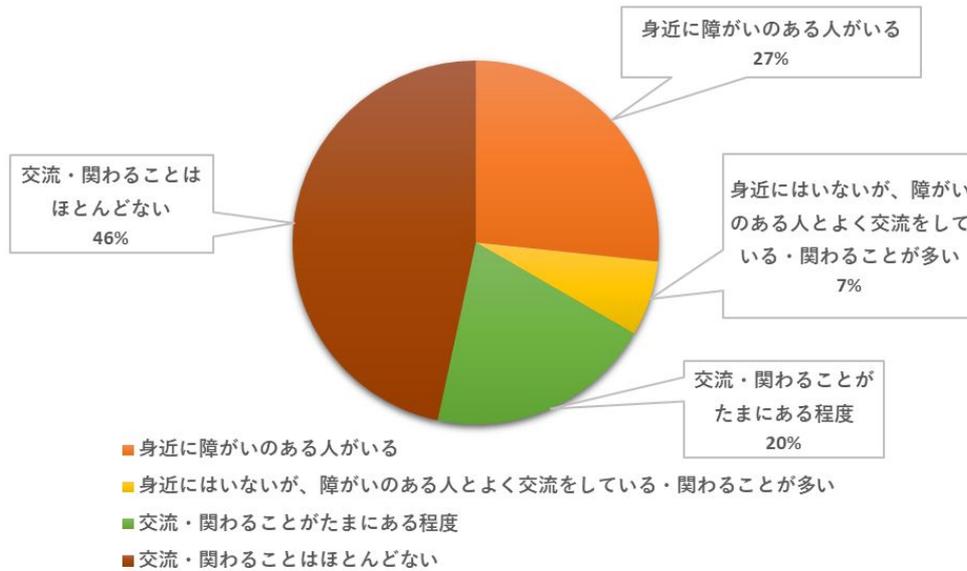


## 関わった後の満足度

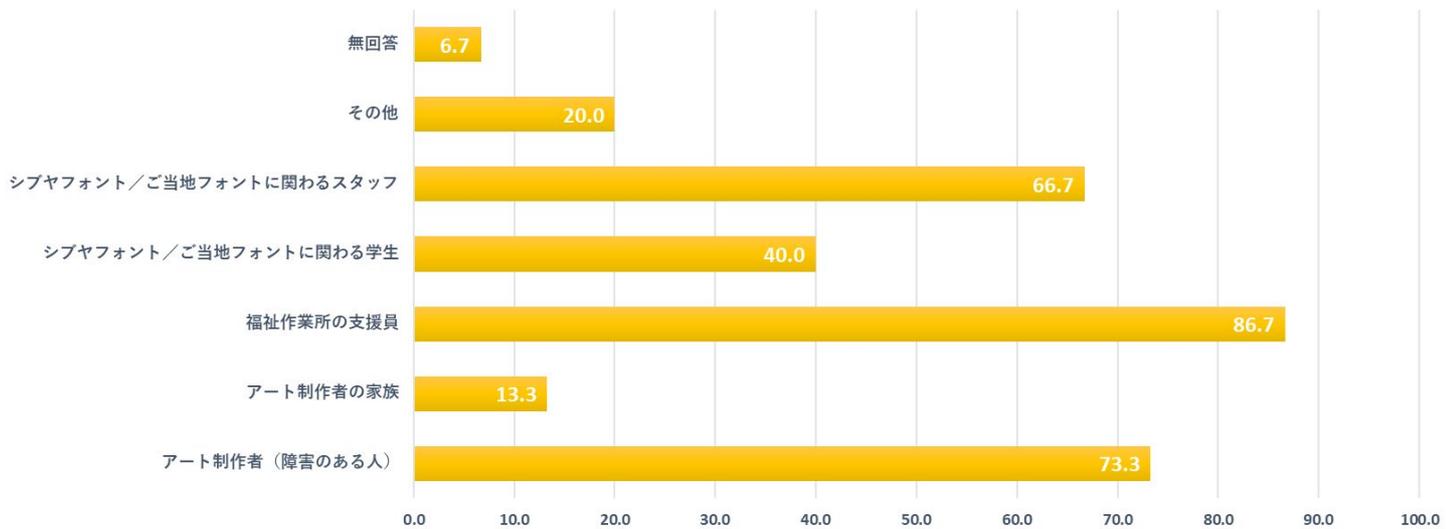


# 学生における変化

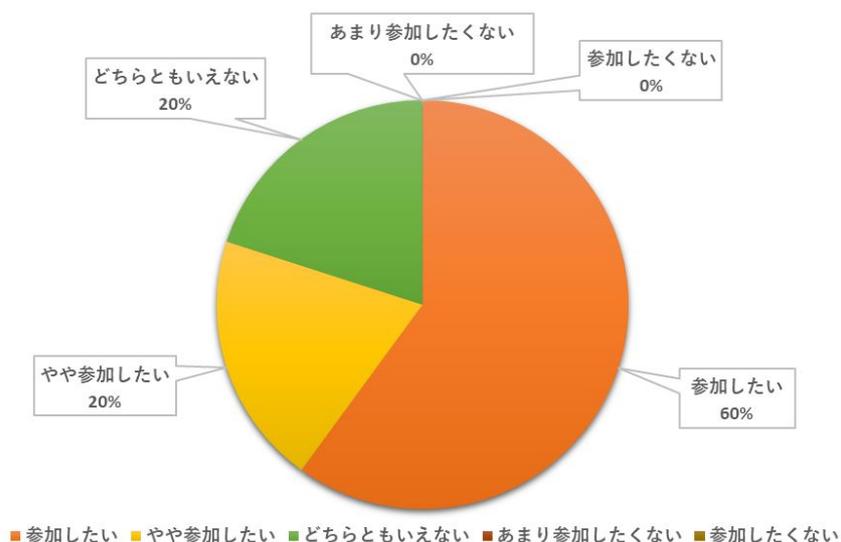
## ◆参加前の障がい者との関わり



## ◆活動において新たに交流した人



## ◆今後の活動への参加意向



# 学生における変化 アンケートシート

Q. 「シブヤフォント」に関わったことで、あなたご自身の心理的な変化や、日常生活において、新たに行動するようになったことはありましたか。どのような変化があったか、その理由などをご自由にお書きください。

👤 作品を色んな視点で見ることができました

👤 何かものを作る時、福祉作業所の方をお願いできることはないかなと考えるようになりました

👤 他の障害者アートをみると目にとまり興味をもつようになりました

👤 シブヤフォントのような福祉的活動をしている事業に興味を持ち始めた  
授業の中で障がいのあるなしに関わらず楽しめる絵本の制作や、義足の擬似制作体験に参加するなど自分の行動の幅が増えた。  
地元の福祉事業所に目が行くようになった。→ここ数年で3件ほど増えたことに気がついた。NHKのハートネットTVや障がいのある方のYouTubeを見るようになった。  
パターンやフォントを自主制作できるようになり、デザインのできることの幅も広がった。

👤 関わりを持った方々は、皆さん好きなもの、関心があるものにひたすら純粋に「好き」「気になる」という反応や感情表現をされていて、私自身改めて何に関心を持って物事に取り組んでいるのか考えるきっかけになった。

👤 人間それぞれ大なり小なり障がいを持っているんだろな、という気持ちです。現代では ADHDやASDなどの精神障害もよく聞くようになりましたし、重さが違うだけで世の中には自分が思っているより障がい者さんがいるんだと思うようになりました。別のご当地フォントさんの見学をした際に、その施設の障がい者さんたちが本当に楽しそうに過ごされているのを見て、こういう楽しい場所がたくさん増えたらいいなと感じました。よく先生が「福祉は暗いイメージがあるから楽しくやりたい」とおっしゃっていますが本当にその通りだと思います。小学生の頃から福祉活動に参加してきましたが、楽しかったこともありますが、テーマの暗さにしんどいと思うことの方が多かったです。ご当地フォント活動に参加するようになってから福祉は楽しく広められることを知りました。

# 学生における変化のストーリー 1/5

”障がい者一括りではなく「個人」として捉えるようになる /障がい者も個性があると知る”  
 におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
今まで障がい者の方と全く交流がなかったから、どんな友人ができるのか想像する余地が無かったが、シブヤフォントでの活動を通して、各個人の個性やパーソナリティを知ることができた	気軽に会える状況では無いのかもしれませんが、もっとオープンに出会える場があるといいなと感じており、シブヤフォントがそういった場を広げていく活動を担っていると思う	シブヤフォントの活動を周りの人に伝えている
メンバー全員の仲が良く、施設にお邪魔する時に全員で楽しく談笑している姿を毎回見ることができ、その中に少し混ざることができたことで仲良くなれて繋がりができた。	自分が障害者施設に通ったこともあり、ある程度様々な人がいるというのを認識していたつもりだったが、このプロジェクトに参加したことでより理解を深めることができた。	今までの自分なら、仕事上の関わりで済ませていたのが、継続的に関わりを持っているという変化があった。
施設のアーティストの方たちのお絵かきは、これは仕事だという意識で取り組まれている方もいることを初めて知り、驚きました。	お恥ずかしながら障がいのある方に対する知識があまり無かったのですが、思っていたよりもしっかり考えているし、意思があることを知りました。また、素敵で個性的な絵や文字をかかれるため、障がいは本当に個性の一つだと実感しました。	新たな方と一緒に何かに取り組むことは、難しさを感じるとともに、面白いなとも思いました。シブヤフォントで、経験が無くても乗り越えられるから挑戦しようというマインドになりました。
障害を持った方とかかわることが少し怖かったのですが、意外と普通の人で安心しました。	障害を持っている持っていないにかかわらず人それぞれいろんな発想があることに気づきました。	社会貢献になると思うので、人と関わるときにいい印象をもたれると思います。電車の広告や町中のポスターのデザインやフォントなどをよく観察するようになりました

”(障がい者に限らず)他者理解が深まる／自分と異なる他者への先入観や抵抗感がなくなる”  
 におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
	私は小学生の時、手に障がいがある児童と同じクラスだった経験からなのか、障がいに対するボーダーがなかったと気づきました。	障がいのある方とコミュニケーションを取るにあたり、戸惑いを感じてしまうのは経験が少ないだけで、接する機会が増えれば相互理解が広がるのではと考えました。 障がいの有無に関わらず、よりフラットな気持ちで他者とコミュニケーションを取ることを心がけるようになりました。

## 学生における変化のストーリー 2/5

”周囲に伝える／知ってもらいたいと思う ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
今まで障がい者の方と全く交流がなかったから、どんな友人ができるのか想像する余地が無かったが、シブヤフォントでの活動を通して、各個人の個性やパーソナリティを知ることができた	気軽に会える状況では無いのかもしれませんが、もっとオープンに出会える場があるといいなと感じており、シブヤフォントがそういった場を広げていく活動を担っていると思う	シブヤフォントの活動を周りの人に伝えている
福祉作業所で働く方々の賃金がとても安いことに大きな衝撃を感じた。		何かそこを変える方法はないものかと課題感をもつようになりました。1人でも多くの方がこの状況を知ることが、何かを変えるキッカケを生み出すことにつながると思います。自らも何かものを作る時、福祉作業所の方にお願ひできることはないかなと考えるようになりました。

”障がい者アートや障がい者事業に関心を持つ ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
コンディションによって障害者の方が絵を描けない時もあるので、テーマに沿って素材を集めるのが大変な時もありましたが福祉の方やプロジェクト関係者に進め方を相談することで、最終的には良い素材を活かした作品を制作することができました。綺麗で形が整ってないものにもたくさんの美しさがあり、デザインに関わるものとしてたくさんのアートに触れて刺激をうけました		障害関係なく、テーマに沿って素材をどのように引き出して活かしていくのか考える過程もとても勉強になりました。他の障害者アートをみると目にとまり興味をもつようになりました
福祉作業所で働く方々の賃金がとても安いことに大きな衝撃を感じた。		何かそこを変える方法はないものかと課題感をもつようになりました。1人でも多くの方がこの状況を知ることが、何かを変えるキッカケを生み出すことにつながると思います。自らも何かものを作る時、福祉作業所の方にお願ひできることはないかなと考えるようになりました。

## 学生における変化のストーリー 3/5

”障がい者への抵抗感、怖さが無くなる” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
	<p>私は小学生の時、手に障がいがある児童と同じクラスだった経験からなのか、障がいに対するボーダーがなかったと気がつきました。</p>	<p>障がいのある方とコミュニケーションを取るにあたり、戸惑いを感じてしまうのは経験が少ないだけで、接する機会が増えれば相互理解が広がるのではと考えました。 障がいの有無に関わらず、よりフラットな気持ちで他者とコミュニケーションを取ることを心がけるようになりました。</p>
	<p>人間それぞれ大なり小なり障がいを持っているんだろうな、という気持ちです。現代ではADHDやASDなどの精神障害もよく聞くようになりましたし、重さが違うだけで世の中には自分が思っているより障がい者さんがいるんだと思うようになりました。</p>	<p>TPOの問題もあるのかもしれませんが、『怖い』という気持ちは少なからず減ったと思います。</p>
<p>障害を持った方とかかわることが少し怖かったのですが、意外と普通の人で安心しました。</p>	<p>障害を持っている持っていないにかかわらず人それぞれいろんな発想があることに気づきました。</p>	<p>社会貢献になると思うので、人と関わる時にいい印象をもたれると思います。  電車の広告や町中のポスターのデザインやフォントなどをよく観察するようになりました。</p>

# 学生における変化のストーリー 4/5

## ”その他” におけるエピソード①

きっかけ	気づき	変化内容
描いて欲しいものをリクエストしても、イメージと全然違うものが出来上がる。	思ったより、イラストの書き手や施設の方とのコミュニケーションが重要。普通のクライアントワークと違う、さまざまな人と一緒にものを作るため、違う方向性の意見が出る。障害者の方の考えをどう生かすかも重要となる。	
コンディションによって障害者の方が絵を描けない時もあるので、テーマに沿って素材を集めるのが大変な時もありましたが福祉の方やプロジェクト関係者に進め方を相談することで、最終的には良い素材を活かした作品を制作することができました。綺麗で形が整っていないものにも沢山の美しさがあり、デザインに関わるものとしてたくさんのアートに触れて刺激を受けました		障害関係なく、テーマに沿って素材をどのように引き出して活かしていくのか考える過程もとても勉強になりました。他の障害者アートをみると目にとまり興味をもつようになりました
単純にパターンとフォントの制作に苦戦した。絵を描いてくれた方に1案目のパターンを見せた時にあまり良い反応ではなく少し落ち込んだ。なるべく早くブラッシュアップできるように、施設で作業させてもらい、意見を聞く機会を増やした。結果的に、最初は緊張してコミュニケーションが取り辛かった方たちとも話せるようになり、交流の幅が広がったことでデザイン案も方向性が固まっていた。	作業のために施設に通う中でだんだんと心の距離も縮まっていくのを感じ、2人で一つのを作り上げていく共創感は授業の中では味わえない難しさと喜びを感じた	障がいのある人は、守るべき存在なのではなくて、一緒に社会を動かしていく存在なのだと感じた。障がいのある人との共創を通じて、本人たちの今できることを活かせる事柄がもっと増えたらいいなと思った。
施設のアーティストの方たちのお絵かきは、これは仕事だという意識で取り組まれている方もいることを初めて知り、驚きました	お恥ずかしながら障がいのある方に対する知識があまり無かったのですが、思っていたよりもしっかり考えているし、意思があることを知りました。また、素敵で個性的な絵や文字をかかれるため、障がいは本当に個性の一つだと実感しました。	新たな方と一緒に何かに取り組むことは、難しさを感じるとともに、面白いなとも思いました。シブヤフォントで、経験が無くても乗り越えられるから挑戦しようというマインドになりました。
私たちが訪問した施設で働くアーティストさんは、それぞれこだわりや個性を持っていて、私たちがなにかアクションを起こさなくても描きたいと思うものや想いが溢れていたのもので、その想いを初めて作品を見た人にも伝わるぐらいの熱量を持って向き合っていく、という関わり方をした。		関わりを持った方々は、皆さん好きなもの、関心があるものにひたすら純粋に「好き」「気になる」という反応や感情表現をされていて、私自身改めて何に関心を持って物事に取り組んでいるのか考えるきっかけになった。
色んな方との交流の時間が増え、活動の幅が広がった	人とのつながりや福祉の世界にきづく良いきっかけになりました。	今はうつ病などで引きこもり気味な方にもどんなプロダクトを提供できるか模索中です

# 学生における変化のストーリー 5/5

## ”その他” におけるエピソード②

きっかけ	気づき	変化内容
<p>普段関わることのあまりない障がい者の方たちとアートワークをするのが楽しいと感じました。自分のデザイン力の向上と社会貢献を同時にできるので参加してよかったと思っています。自分がデザインしたものを実際に見て頂いたときに大変喜んでくださり、とても嬉しかったのを覚えています</p> <p>別のご当地フォントさんの見学をした際に、その施設の障がい者さんたちが本当に楽しそうに過ごされているのを見て、こういう楽しい場所がたくさん増えたらいいなと感じました。</p>		<p>よく先生が「福祉は暗いイメージがあるから楽しくやりたい」とおっしゃっていますが本当にその通りだと思います。小学生の頃から福祉活動に参加してきましたが、楽しかったこともありますが、テーマの暗さにしんどいと思うことの方が多かったです。ご当地フォント活動に参加するようになってから福祉は楽しく広められることを知りました。</p>
	<p>人間それぞれ大なり小なり障がいを持っているんだろうな、という気持ちです。</p> <p>現代ではADHDやASDなどの精神障害もよく聞くようになりましたし、重さが違うだけで世の中には自分が思っているより障がい者さんがいるんだと思うようになりました</p>	<p>TPOの問題もあるのかもしれませんが、『怖い』という気持ちは少なからず減ったと思います。</p>

## シブヤフォント・ご当地フォントに関わった方々の変化

---

デザイナー

# デザイナーにおける変化

※アンケートの中から代表的なコメントをピックアップして記載

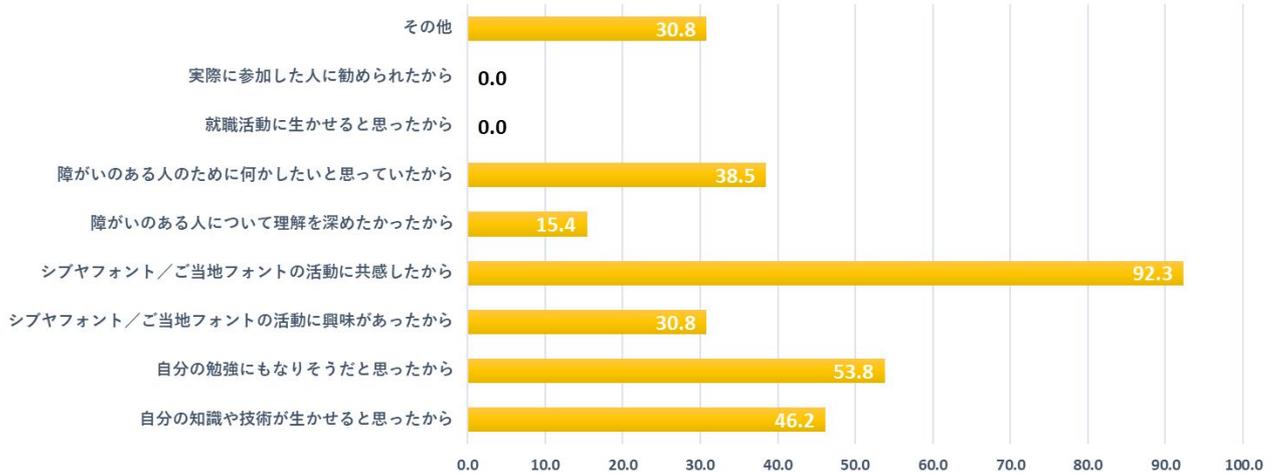
## 関わる前

障がいのある人と接点がなく、存在を感じることも今までなかった  
接するのが怖い、どう接していいかわからない、コミュニケーションが取れるか不安

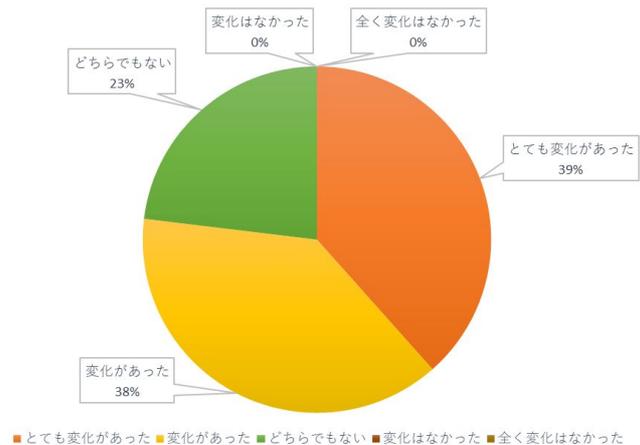
障がいがあるとなかろうと、モノづくりの現場はとても平等で差がないものだと思います。自由な発想を持つ人は障がいの有無関係なしにモノづくりを楽しめていて、生み出す事に幸せを感じてるんだな、と思います。

今までクライアントありきのデザイン業務が主でしたが、世の中にはまだまだクリエイティブの可能性が広がっていると感じ、最近では同じような若い子供たちの作品にも、よりワクワク感を持って見る事ができています。

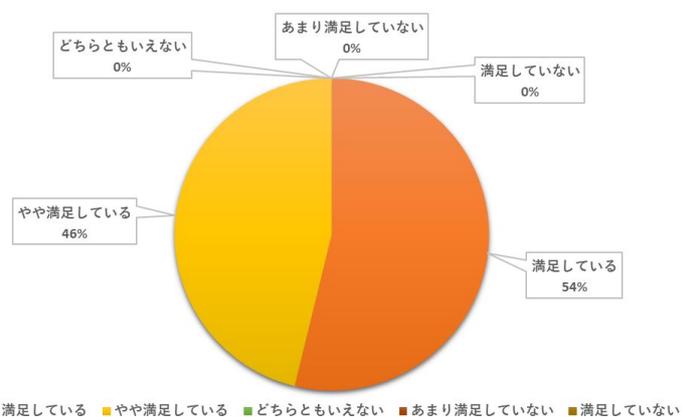
## 参加理由



## 活動参加後の変化の傾向

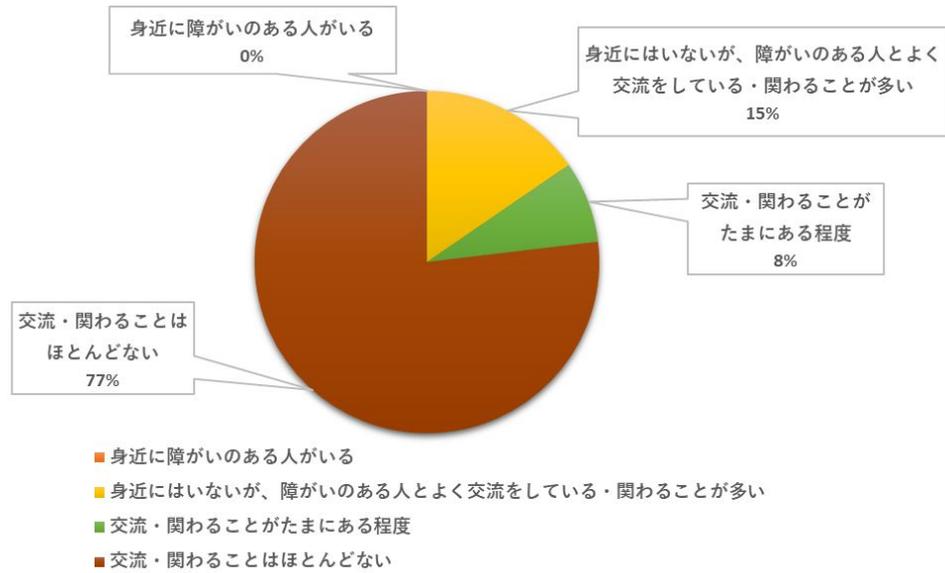


## 関わった後の満足度

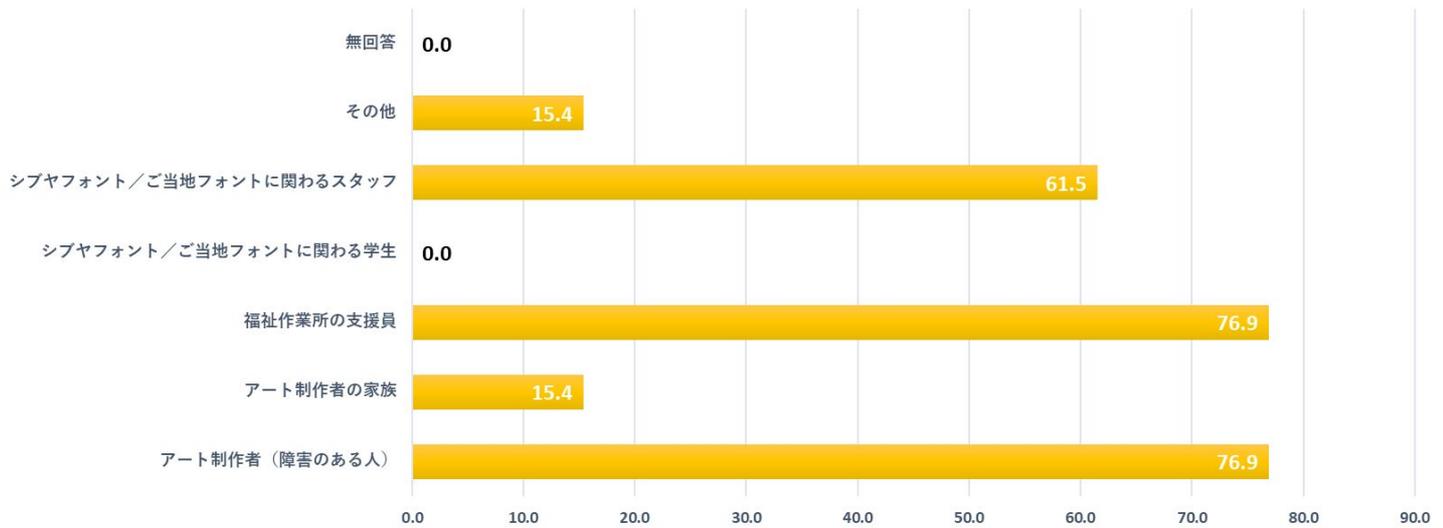


# デザイナーにおける変化

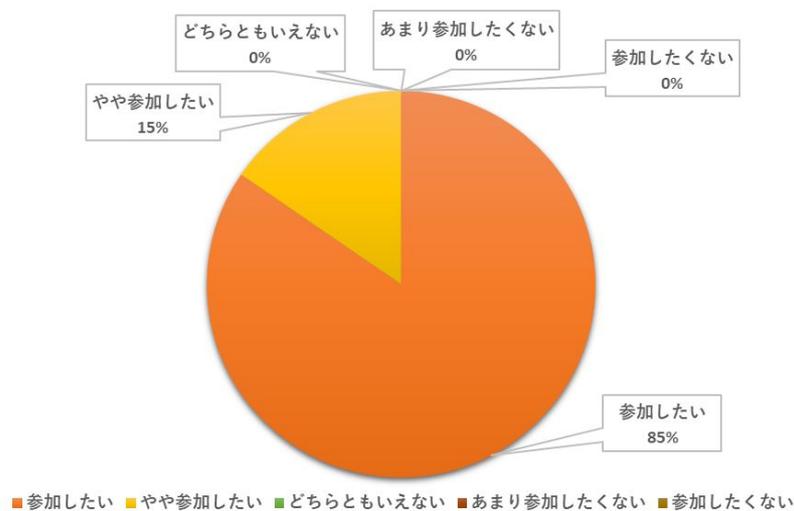
## ◆参加前の障がい者との関わり



## ◆活動において新たに交流した人



## ◆今後の活動への参加意向



# デザイナーにおける変化 アンケートシート

Q. この活動や色々な人との交流を通して、障がいのある人に対する考え方、捉え方に変化がありましたか。

👤 フォントに携わることで障がいのある人と一括りにしていた自分に気づかされました。女にもさまざまあるように障がいのある人もさまざま。あたりまえなんですけど人と人なんだと改めて思いました。

👤 うまく言い表せないけど、彼らはとてもチャーミングな存在です。

👤 人って存在してるだけで愛なんだと強く思わされました。

👤 障がいがあろうとなかろうと、モノづくりの現場はとても平等で差がないものだと思います。自由な発想を持てる人は障がいの有無関係なしにモノづくりを楽しめていて、生み出す事に幸せを感じてるんだな、と思います

👤 一緒に制作活動を行ったのは絵画クラブに所属する知的障害の方たちです。人によってこだわりが有る・無い、時間をかける・5分で終わる、などありました。また絵画クラブに長年所属しているので画材へのこだわりもあり、水彩画からクレヨン、MY画材をみなさん持っていました。それ以外の画材に出会ったり、室内だけではなく屋外で絵を描いたり、と制作活動の可能性も広げられるように支援施設の人たちと検討していきたいと思います。

👤 実際なかなか接点がない方と交流を通して、障がいの種類や程度、性格も含め、それぞれの方の個性と捉えられるようになった。  
また、確かに支援の手が必要な方の存在の認識と、自分や企業の立場でできることを考えるようになった。

👤 障がいのある人と接点がなく、存在を感じることも自体が今までなかった。障がいのある人にも生活があり、能力を活かせる場があることを知った

👤 自分となにも変わらない人間であること

👤 障害を持っている持っていないにかかわらず人それぞれ色々な発想があることに気づきました

👤 最初は、「精神障がい者って、どんな人なんだろう？」という疑問から始まり、いざ関わってみると普通に接してくれて、仲良く話しながらアートワークに取り組みました。

👤 ご当地フォント参加前は接するのが怖い、どう接していいかわからない、コミュニケーションが取れるか不安。現在は話すことが楽しい&こっちが笑顔になる。周りの空気が暖くなる印象

👤 TPOの問題もあるのかもしれませんが、『怖い』という気持ちは少なからず減ったと思います

# デザイナーにおける変化のストーリー 1/5

”障がい者一括りではなく「個人」として捉えるようになる /障がい者も個性があると知る”  
におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
今まで障がいのある方と接点がなくコミュニケーションを取ることができのかわからない、怖いと思っていたが、実際に接するとそれぞれに個性があることがわかった	個性が作品に反映されており、とても面白くて純粋に好きだなと思える。	墨田区の観光協会にプロボノとして参加している中で、障がい者の作品が採用されているものがあったが、それ以外にも障がい者の方と一緒に取り組めないか検討している
実際に福祉施設でお話を伺う中で、アーティストさんの背景を知ることができ、どんどん仲が深まっていた。それで障がいをもっている人としてだけでなく、人として関わっていくことができたことが印象に残っている。	障がいを持っていることは一番前面に出てしまい注目されがちだが、まずは人間として、誰しもが持っている悩みや過去のトラウマなどがあることが物作りの活力やエネルギーになっていると思う。それは人それぞれだと思う。障がいがあることではなく、その人自身を知ることがシブヤフォントをやっていく中で掴むことができた。	以前は障がいを持つ方はできないことが多く、助けが必要な方が多いと思っていたが、私が関わった方はご自身でやりたいことがたくさんあった。私たちはそれをどう活かすかということになり、デザイナーとして成長するきっかけになったと思う。
さしこでフォントを作ったのですが、とてもマイペースで急かすこともできず事業所の方と一緒にとてもハラハラしたこと。デザインは楽しくさせていただいたのですがパターンにするノウハウをつかむのが難しかった。	フォントに携わることで障がいのある人と一括りにしていた自分に気づかされました。女にもさまざまあるように障がいのある人もさまざま。あたりまえなんですけど人と人なんだと改めて思いました。	障がいのある人を町で見かけると、前は見ないようにしたりしていました。分からなくて怖かったのです。今は面白そうだなと思ったりしている自分がいます。障がいのある人というカテゴリーが前ほどないような気がします。
実際なかなか接点がない方と交流を通して、障がいの種類や程度性格も含め、それぞれの方の個性と捉えられるようになった	確かに支援の手が必要な方の存在の認識と、自分や企業の立場でできることを考えるようになった。	交流の幅、他者への理解が深まることで、人と人とのつながりのハードルが低くなったと思う。
「障がい者」と一括りにできないほど、色んな方がいらっしゃる事が分かり、同時に支援する方の現状や思いも知る事ができました		外部の人(当社)が関わることにより、それぞれが期待をもって新しい挑戦をしているようです。協力してくださる方の期待を裏切ることのないように...と気が引き締まります。活動を通して見聞きした情報を、現場を知らない他者にも伝える機会・場所ができたのは、社会的意義を感じます。

## デザイナーにおける変化のストーリー 2/5

”(障がい者に限らず)他者理解が深まる／自分と異なる他者への先入観や抵抗感がなくなる ”  
におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
ご当地フォントに参加することになった	接する相手のことをもうちょっと理解しようという気になった	ユニバーサルデザインコーディネーターという資格を取った。  私のデザイナーとしての未来を変えるでしょうみたいな気持ちでいる。正直資格とかにはあまり興味がなくて、実績だと思っていたのだが、学ぶ機会を設けられたのが大きな変化
さしこ でフォントを作ったのですが、とてもマイペースで急かすこともできず事業所の方と一緒にとてもハラハラしたこと。デザインは楽しくさせていただいたのですがパターンにするノウハウをつかむのが難しかった。	フォントに携わることで障がいのある人と一括りにしていた自分に気づかされました。女にもさまざまあるように障がいのある人もさまざま。あたりまえなんですけど人と人なんだと改めて思いました。	障がいのある人を町で見かけると、前は見ないようにしたりしていました。分からなくて怖かったのです。今は面白そうだなと思ったりしている自分がいます。障がいのある人というカテゴリーが前ほどないような気がします。
実際なかなか接点がない方と交流を通して、障がいの種類や程度性格も含め、それぞれの方の個性と捉えられるようになった	確かに支援の手が必要な方の存在の認識と、自分や企業の立場でできることを考えるようになった。	交流の幅、他者への理解が深まることで、人と人のつながりのハードルが低くなったと思う。
デザイナーとして、自分には無い発想に出会えることがまずワクワクしました。そして障害のある人の描く絵に期待もしていました。その絵に自分が加工する立場として関わることが嬉しくて「ご当地フォント」へ参加しました。 作品を作って思ったのは、こんなにも制作活動が楽しい(人の作品を扱うという良いプレッシャーとちょっと良くしたいという意欲)ということでした。反省点は原画を描いてもらう時間にもっとコミュニケーションを取ること(まだ2-3回しか原画作成時間を取れていない) 原画をもっと活かした作品にできるよう努めます。		障害のある人と関わるのがあまりなかった(仕事面や、身近にいないので)のですが、ご当地フォントに参加することになってから、ユニバーサルデザインコーディネーターの資格を取りました。障害だけではなくマイノリティや人と違う(国籍、年齢、身長、体重、妊婦、)ことへの理解を深めたいと思いました。

# デザイナーにおける変化のストーリー 3/5

## ”障がい者の可能性や才能を知る” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
アーティストさんの素直な反応と作られたものへの執着はなく「創作行為」そのものが喜びだと思われること。つくってくれたものを「すごく素敵！」と伝えた時の笑顔がチャームングだったこと。	施設の方の才能が、埋もれていることや知られてないことがもったいないと感じた。	彼らの魅力(サポートのスタッフのの方も含めて)をもっと知ってもらいたいと思うようになった。障がいのある方とそうでない方が、もっと一緒に交わる社会になったら、もっとお互いの理解が進むようになると思うようになった。
障がいのある人と接点がなく、存在を感じることで体が今までなかった。障がいのある人にも生活があり、能力を活かせる場があることを知った。		障がい者雇用を推進している飲食店を利用するようになった。機会と必要性があれば、障がいを持つ方が作ったものを購入する。など

## ”周囲に伝える／知ってもらいたいと思う” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
アーティストさんの素直な反応と作られたものへの執着はなく「創作行為」そのものが喜びだと思われること。つくってくれたものを「すごく素敵！」と伝えた時の笑顔がチャームングだったこと	施設の方の才能が、埋もれていることや知られてないことがもったいないと感じた。	彼らの魅力(サポートのスタッフのの方も含めて)をもっと知ってもらいたいと思うようになった。障がいのある方とそうでない方がもっと一緒に交わる社会になったら、もっとお互いの理解が進むようになると思うようになった
「障がい者」と一括りにできないほど、色々な方がいらっしゃる事が分かり、同時に支援する方の現状や思いも知ることができました。		外部の人(当社)が関わることにより、それぞれが期待をもって新しい挑戦をしているようです。協力してくださる方の期待を裏切ることのないように...と気が引き締まります。活動を通して見聞きした情報を、現場を知らない他者にも伝える機会・場所ができたのは、社会的意義を感じます。
始める前は普段の生活であまり接点のない障がい者アートや障がい者アーティストの方たちとうまくかわっていきけるかかなり不安でした。		リリースして数か月、今は少しでも多くの作品やアーティストをいろんな人たちに知ってほしい！という想いで活動しているくらいに前のめりになりました。日常生活を送る中で障がい者と接する抵抗感がなくなる。また不安に思っている方へのフォロー等もできるようになる。

# デザイナーにおける変化のストーリー 4/5

## ”障がい者アートや障がい者事業に関心を持つ ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
シブヤフォントの活動に参加して障がいのある方と定期的に直接触れ合う機会ができた	障がいの有り無しに関わらず人がやさしくなれるような世界になってほしいと思った	障がい者福祉に興味を持つようになり、障がいの有無に関わらず楽しめる絵本を製作したり、ヘッドネーションのために髪を伸ばしたり、ハンセン病資料館に行って義足の疑似製作体験をしたりした。自分の視野と行動の幅を広げるきっかけになったと思う。シブヤフォントに入社するきっかけにもなった。
障がいのある人と接点がなく、存在を感じることも自体が今までなかった。障がいのある人にも生活があり、能力を活かせる場があることを知った。		障がい者雇用を推進している飲食店を利用するようになった。機会と必要性があれば、障がいを持つ方が作ったものを購入する。など

## ”障がい者への抵抗感、怖さが無くなる ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
今まで障がいのある方と接点がなくコミュニケーションを取ることができのかわからない、怖いと思っていたが、実際に接するとそれぞれに個性があることがわかった。	個性が作品に反映されており、とても面白くて純粋に好きだと思える。	墨田区の観光協会にプロボノとして参加している中で、障がい者の作品が採用されているものがあつたが、それ以外にも障がい者の方と一緒に取り組めないか検討している
さしこ でフォントを作ったのですが、とてもマイペースで急かすこともできず事業所の方と一緒にとてもハラハラしたこと。デザインは楽しくさせていただいたのですがパターンにするノウハウをつかむのが難しかった。	フォントに携わることで障がいのある人と一括りにしていた自分に気づかされました。女にもさまざまあるように障がいのある人もさまざま。あたりまえなんですけど人と人なんだと改めて思いました。	障がいのある人を町に見かけると、前は見ないようにしたりしていました。分からなくて怖かったのです。今は面白そうだなと思ったりしている自分がいます。障がいのある人というカテゴリーが前ほどないような気がします。
始める前は普段の生活であまり接点のない障がい者アートや障がい者アーティストの方たちとうまくかわっていきけるかかなり不安でした。		リリースして数か月、今は少しでも多くの作品やアーティストをいろんな人たちに知ってほしい！という想いで活動しているくらいに前のめりになりました。日常生活を送る中で障がい者と接する抵抗感がなくなる。また不安に思っている方へのフォロー等もできるようになる。

# デザイナーにおける変化のストーリー 5/5

”その他” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
ご当地フォントに参加することになった	接する相手のことをもうちょっと理解しようという気になった	ユニバーサルデザインコーディネーターという資格を取った。私のデザイナーとしての未来を変えるでしょうみたいな気持ちでいる。正直資格とかにはあまり興味がなくて、実績だと思っていたのだが、学ぶ機会を設けられたのが大きな変化。
今まで障がいのある方と接点がなくコミュニケーションを取ることができるとか分からない、怖いと思っていたが、実際に接するとそれぞれに個性があることがわかった	個性が作品に反映されており、とても面白くて純粋に好きだなと思える。	墨田区の観光協会にプロボノとして参加している中で、障がい者の作品が採用されているものがあったが、それ以外にも障がい者の方と一緒に取り組めないか検討している
あまりやる気や欲のないアーティストさんが、シブヤフォントに関わった。		絵を描くことに興味を持ち、絵の学校に通うようになった。
普段なかなか接する機会のない人たちと、アートを通してクリエイティブな場が生まれ、交流できるので、活動自体も楽しく、とても参加しがいがありました。	障がいがあろうとなかろうと、モノづくりの現場はとても平等で差がないものだと思います。自由な発想を持つ人は障がいの有無関係なしにモノづくりを楽しめていて、生み出す事に幸せを感じてるんだな、と思います。	今までクライアントありきのデザイン業務が主でしたが、世の中にはまだまだクリエイティブの可能性が広がっているなど感じ、最近では同じような若い子供たちの作品にも、よりワクワク感を持って見る事ができています。
一緒に制作活動を行ったのは絵画クラブに所属する知的障害の方たちです、人によってこだわりが有る・無い、時間をかける・5分で終わる、などありました。また絵画クラブに長年所属しているので画材へのこだわりもあり、水彩画からくれよん、MY画材をみなさん持っていました。		いつも使っている画材以外に出会ったり、室内だけではなく屋外で絵を描いたり、と制作活動の可能性も広げられるように支援施設の人たちと検討していきたいと思えます

## シブヤフォント・ご当地フォントに関わった方々の変化

---

支援員

# 支援員における変化

## アンケートシート 1/2

Q. この活動や色々な人との交流を通して、施設職員として、あなたご自身の心理的な変化や、日常生活や仕事において新たに行動するようになったことはありましたか。

● アートへの関心を強く持つようになった。

● メンバーの描いたメモ書きや殴り書きも「何かに使えるかも知れない」という視点で見えるようになった。企業側や社会側からの関心の高さを知るようになって、自分たちの事業所が社会から隔絶された(取り残された)場所では無く、価値を提供して交わっていける面白い場所だと、より胸を張れるようになっていく。

● 施設間同士のつながりが広がったことで福祉の仕事を多角的に見えるようになった。その上で、自分の施設の長所短所を客観的に捉え、施設にとってのチャレンジを考えるようになった。シブヤフロントに関わる仕事は楽しいが、今までの福祉施設の働き方にある要素もあるので施設内の共有は課題としてある。

● 利用者の見方が変わったり、仕事の視野も広がった。

● 他施設の取り組み、街中でアートを見て活かす方法はないか考えるようになった。

● 今まで別の障がい者施設で働いていたときには、施設の限界や閉塞感を感じた部分もあり、ある種の軽いあきらめのような感覚もあったと思います。しかし、渋谷区の施設に来て様々な施設が手を取り合って協力する姿勢やシブヤフロントの活動で利用者の可能性を広げてゆくを見て、日々の支援の中でも利用者の能力をこちらで決めず少しでもチャレンジできるように促すことが増えたと思います。シブヤフロントを通じてショウガイはヘンシンできるという言葉が胸に刻み込まれました。

● 以前よりもインスタを見るようになり、他の施設の情報を確認するようになった

# 支援員における変化

## アンケートシート 2/2

Q. この活動や色々な人との交流を通して、施設職員として、あなたご自身の心理的な変化や、日常生活や仕事において新たに行動するようになったことはありましたか。

施設内の職員が、支援から社会発信までを行うことが大切だと思ってきましたが、利用者さんや職員の目標や願いを叶えるためには、専門的な方や外部の方の力を借りることで、それぞれに役割があることを知りました。結果的に利用者さんの作品が世に出て評価され社会の中で必要とされることにつながるので、より良い結果を生むためのプロセスを意識するようになりました。

自分自身に笑顔が増えた

風通し良く来客が増え自分もメンバーもいきいきしていた事があった

利用者さんや保護者の方との関係がプラスになったと感じます。より良い作品を描いてもらおうと前向きになりました。  
また、新しいパターンやフォントが生まれる楽しさを感じています。

利用者さんの作品をじっくり見るようになった  
新しい活動にもチャレンジしてみようと思うようになりました

この活動を通して、たくさんの方とのつながりからご縁がありました。  
利用者の方にとっても前向きな姿勢や意欲につながっているということも見られたと思っています。今後も繋がりを大切にしながら事業所でも周知に取り組みたいと思っています。  
また、利用者の方が日常を楽しみながら活動をしたり、ありのままそのまますを大切にしながら支援していきたいと思っています。

アプローチの仕方で、利用者様の新しい才能を発見できたり、支援と似ているなと思いました。なるべくたくさんの選択肢の中から合うものを探していきたいと思いました。日常的には街中の建物やアートを自然に探すようになりました。

# 支援人における変化

※アンケートの中から代表的なコメントをピックアップして記載

## 関わる前

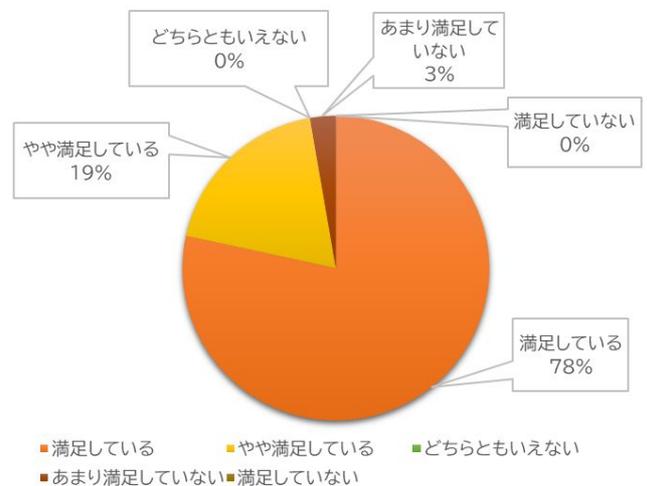
最初はどのようなものかわからなかった

活動していくうちに色々な可能性があると感じた  
障がいのある人の才能を世の中に発信している有意義な活動だと思います

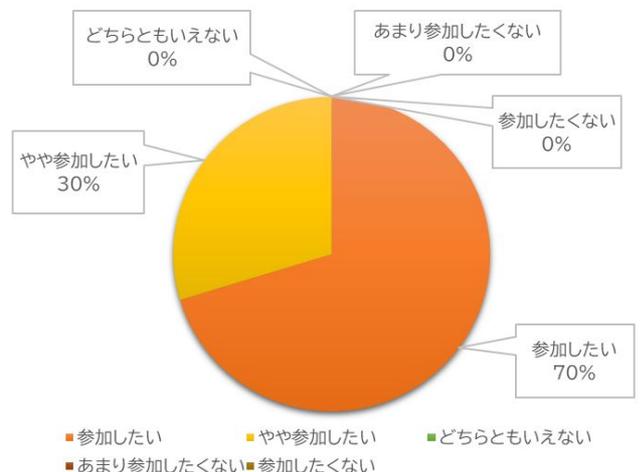
<利用者の変化>  
普段あまり集中力がなかったが、この活動の時は集中していた

<支援員の変化>  
この活動に参加することによって利用者の見方が変わったり、仕事の視野も広がった  
他施設の取り組み、街中でアートを見て活かす方法はないか考えるようになった

## 関わった後の満足度



## 参加意向



# 支援員における変化のストーリー 1/7

”社会とのつながりを感じられる／社会とのつながりが増える ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
<p>アートを活用させてもらう時に、そのアーティストさんのことを知らないとならない</p>	<p>表面上に書かれたものだけではなくその人の人となりを知っていくという課程が事業に組み込まれていことがそれが大きなメリットと気づいた。</p>	<p>それが地域連携とか事業所間の横のつながりになるのかなと思う。事業所間の流れができるようになって、これまではちょっと会うことはあっても一緒に何かすることはなくて、本当に共用できること、横でできることはご当地フォントの面白いところだと思う。</p>
<p>渋谷みやげPJの初年度、メンバーが描いたスケッチブックを見ながら「この文字も作品になるかも知れない」と話したことが後の「シブヤフォント」としてこんなに大きく成長するとは感慨深い。</p>	<p>メンバーの描いたメモ書きや殴り書きも「何かに使えるかも知れない」という視点で見えるようになった。</p>	<p>自分たちの事業所が社会から隔絶された(取り残された)場所では無く、価値を提供して交わっていきける面白い場所だと、より胸を張れるようになった。</p>
<p>他のご当地フォント団体や事業所と交流するようになった。</p>		<p>対外的な関わりが増えたことで、これまでと違う側面からその人の良いところを把握できることが増え、まだまだ可能性があるのでは?と思った。</p>
<p>行政(市)が神戸フォントの活動を応援してくださっていること</p>		<p>障がい者が活躍できる場が広がる事を期待しています。事業所の横の繋がりができ、情報交換ができるようになった。</p>
<p>他のフォントさんと交流した</p>	<p>携わった利用者さん、支援員、デザイナー共に意識が少し変わったように感じますし、共通言語として一つのワードができ、可能性が広がったように感じます。</p>	<p>スタッフ側の意欲が高まり、営業として地元の企業さんとのつながりを持つようとしている</p>

## 支援員における変化のストーリー 2/7

”障がいのある家族・利用者の再評価につながる ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
	<p>利用者がアーティストさんに見えてきた。</p>	<p>これまでよりもじっくりと利用者さんの作品を見るようになった。そして美術館に足を運んだり、利用者さんも一緒に見に行くのもいいなという意識に変わってきた。</p>
<p>アート活動に対して他の支援員さんは関心が薄かったが、神戸フォントに参加し、デザイナーさんの手が入り企業さんまで繋がるという仕組みが他の支援員さんにもわかりやすくグッズを作るとか展示会に出すなどイメージがしやすくなった。</p>		<p>今まで関心のなかった支援員さんが「これフォントに使えるかな」「この人の絵は面白い」と私たちに持ってきてくれるようになった。そして普段から絵や文字を書かない利用者さんも、書いてみようかなと試してみたり、みんなでやってみようという雰囲気変わった。また、今までは好きに描いたものを作品展に出すだけだったものが「仕事」の形になったことでテーマの伝え方などを考えながら支援するようになった</p>
<p>作業が難しい人もたくさんいるが、そういう人でもすごくいい作品を作ることを目の当たりにした</p>	<p>どんな人でもいいところがあるという発想が持てるようになった。</p>	<p>だから描くことが苦手な人でも、自分たちの支援がはまっていなくても、いいところがあるのだろうと頭でなく実感レベルでわかるようになった。</p>
<p>普段作業を継続できなくて寝てしまうような人もいるが、描き続けることでグッと集中できて、寝ることなく時間いっぱい描くことに集中できる利用者さんがいた。</p>	<p>描き続ける中で、その人のスタイルがどんどん決まってくる。神戸フォントをきっかけにアート事業を本格化させたが、「この人の色はこれだよ」「この人の線の太さはこれだよ」というのが少しずつ出てきて、絵を通してその人のアイデンティティが垣間見えるようになった。</p>	
<p>イラスト制作のご依頼をいただき、テーマなどを利用者さんに伝える際、思うように伝わらなかった時に伝え方に難しさを感じるがあったが、作業を通して普段の作業では見られない、利用者さんの表現に新しい発見があった。</p>	<p>難しい課題でも意欲的に取り組んでいる方が多く、絵を描くことが好きな方が多いんだなと思った。</p>	<p>書く事に課題があった利用者さんがイラスト作業を通して、オリジナルの表現を書けるようになりました。</p>
	<p>自分たち(支援者)以外の方々と会う回数を重ねる度に、メンバーさんそれぞれが自分なりに相手に合わせて何を求めているかを汲み取ろうとしている姿が印象的でした</p>	<p>普段ならすぐに飽きてしまい離席するメンバーさんも相手の様子を伺いながら期待に応えようとしている様子は日常的な場面ではあまり見られないので新しい一面を発見できたと感じました。</p>

## 支援員における変化のストーリー 3/7

”地域・周囲に認知される／カミングアウトしやすくなる ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
渋谷でシブヤフォントや区役所見て渋谷区が推しているように感じて衝撃を受けた。		滋賀に戻ってから行政にけっこうブッシュアップしたがなかなかすぐにやろうとはならなかったが、最近では周りからご当地フォントもそうだが「※※※がこんなことやる」と行政のほうから「そういったことで作ってくれないか」みたいな話が出てきた。すぐに結果は出なかったが、2年経ってそういうことが出てきていることが、ありがたい。
ファッションショーに参加した		人間関係が広がり地域で知っている人が増えたことが本人の安心感に繋がり落ち着いて過ごしている

”障がい者の可能性・チャンスを感じる ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
今まで絵を描く時間は普段のルーティンに過ぎず、閉塞感を感じていたが、シブヤフォントから学生さんが入ってくれたことで、プロダクとにしやすいものに変わっていくのがすごいと思った。	それを企業さんに使ってもらえるという流れが、未来が広がっている感じがして、その可能性を増やしたと思う。	シブヤフォントに関わる前は決まりきった行動をとっていたが、今は利用者さんと「ないパターン」を作ってみたりと、チャレンジする気持ち、諦めない気持ちがありましたと思うし、それが違う未来に繋がる可能性を感じている
	利用者がアーティストさんに見えてきた。	福祉施設は閉鎖的なところもあり地域連携は非常に難しいが、県や市の行政に「こういうことをやってます。使って」と営業活動してみたりした。福祉関係以外のセミナーなども、私たちには敷居が高いと思っていた日本橋のアンテナショップのセミナーに話を聞きに行ったりして、前のめりなチャレンジ精神が高まったと思う。
他のご当地フォント団体や事業所との交流するようになった。		対外的な関わりが増えたことで、これまでと違う側面からその人の良いところを把握できることが増え、まだまだ可能性があるのでは？と思った。
行政(市)が神戸フォントの活動を応援してくださっていること		障がい者が活躍できる場が広がる事を期待しています。 事業所の横の繋がりができ、情報交換ができるようになった。
利用者さんから「〇〇を大きくしたい。」や「〇〇の色を使いたい。」とアイデアが出たり、自分事として捉えてくれたがとてもうれしく感じます		本人から主体性が・アイデアが生まれている

## 支援員における変化のストーリー 4/7

”自分の仕事や施設に誇りをもつ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
渋谷みやげPJの初年度、メンバーが描いたスケッチブックを見ながら「この文字も作品になるかも知れない」と話したことが後の「シブヤフォント」としてこんなに大きく成長するとは感慨深い。	メンバーの描いたメモ書きや殴り書きも「何かに使えるかも知れない」という視点で見えるようになった。	自分たちの事業所が社会から隔絶された（取り残された）場所では無く、価値を提供して交わっていける面白い場所だと、より胸を張れるようになった。
利用者さんの活動がカタチ（データや製品）になった		福祉関係ではない方々に自信を持って仕事を説明できるようになった。
行政(市)が神戸フォントの活動を応援してくださっていること		障がい者が活躍できる場が広がる事を期待しています。 事業所の横の繋がりができ、情報交換ができるようになった。
他のフォントさんと交流した	携わった利用者さん、支援員、デザイナー共に意識が少し変わったように感じますし、共通言語として一つのワードができ、可能性が広がったように感じます。	スタッフ側の意欲が高まり、営業として地元の企業さんをつながりを持とうとしている
百万石フォントは自治体、県内在住デザイナー、企業、ポレポレが連携し制作された。		スタッフがデザイナーさんとメンバーさんの橋渡し役を楽しそうに頑張っていた事（単なる情報提供ではなく、メンバーの事をプレゼンするかのごとく話していたり、創作活動に関する質問をするなど積極的でした）
株式会社**様と何度も打ち合わせを繰り返し、フォントやパターンとしてデザイン化され、格好よく、可愛く作品が生まれ変わったことに驚きました。さらにグッズ化され、利用者さんだけでなく、保護者の方にもとても喜んでいただけました。  自分の声かけによって、利用者さんが一所懸命に絵や文字を描いてくれたことが、嬉しかったです。		利用者さんや保護者の方との関係がプラスになったと感じます。より良い作品を描いてもらおうと前向きになりました。

# 支援員における変化のストーリー 5/7

”利用者の能力を引き出す視点や工夫をするようになった ” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
今まで絵を描く時間は普通のルーティンに過ぎず、閉塞感を感じていたが、シブヤフォントから学生さんが入ってくれたことで、プロダクトにしやすいもの変わっていくのがすごいと思った	それを企業さんに使ってもらえるという流れが、未来が広がっている感じがして、その可能性を増やしたと思う。	シブヤフォントに関わる前は決まりきった行動をとっていたが、今は利用者さんと「ないパターン」を作ってみたりと、チャレンジする気持ち、諦めない気持ちがましと思うし、それが違う未来に繋がる可能性を感じている
アート活動に対して他の支援員さんは関心が薄かったが、神戸フォントに参加し、デザイナーさんの手が入り企業さんまで繋がるという仕組みが他の支援員さんにもわかりやすくグッズを作るとか展示会に出すなどイメージがしやすくなった。		今まで関心のなかった支援員さんが「これフォントに使えるかな」「この人の絵は面白い」と私たちに持ってきてくれるようになった。そして普段から絵や文字を書かない利用者さんも、書いてみようかなと試してみたり、みんなでやってみようという雰囲気変わった。また、今までは好きに描いたものを作品展に出すだけだったものが「仕事」の形になったことでテーマの伝え方などを考えながら支援するようになった
自分の作品が製品化された利用者さんが照れながらも誇らしげに報告してくれた		利用者がチャレンジできるように工夫する視点を持つようになった。
(以前は施設の限界や閉塞感からある種のあきらめのような感覚があったが) 渋谷区で様々な施設が手を取り合って協力する姿勢やシブヤフォントの活動で利用者の可能性を広げてゆくを見て	シブヤフォントを通じてショウガイはヘンシンできるという言葉に胸に刻みました。	日々の支援の中でも利用者の能力をこちらで決めず少しでもチャレンジできるように促すことが増えた。職員からのリクエストの絵をほとんど描かない利用者が、学生から言われると素直に様々な技法に挑戦し沢山の作品を生み出してゆく
出来上がった作品を缶バッジにしたら家族と本人がとても喜んでくれていた。施設の子どもの作品が使われることで、子供達にとって自信や達成感につながる経験をさせてあげることができた。		今後はみんなに見てもらえるような作品にしてあげたいという気持ちが高まった。描くのが苦手、得意ではないといった子ども、自分からチャレンジするようになった
外部からデザイナーがワークショップに入ってもらえたこと	現場の支援者が利用者さんの持っている力を引き出す感覚を実体験として感じられた	
百万石フォントは自治体、県内在住デザイナー、企業、ポレポレが連携し制作された。		スタッフがデザイナーさんとメンバーさんの橋渡し役を楽しそうに頑張っていた事(単なる情報提供ではなく、メンバーの事をプレゼンするかのごとく話していたり、創作活動に関する質問をするなど積極的でした)
株式会社**様と何度も打ち合わせを繰り返し、フォントやパターンとしてデザイン化され、格好よく、可愛い作品が生まれ変わったことに驚きました。さらにグッズ化され、利用者さんだけでなく、保護者の方にもとても喜んでいただけました。自分の声かけによって、利用者さんが一所懸命に絵や文字を描いてくれたことが、嬉しかったです。	この活動を通して、たくさんの方とのつながりからご縁がありました。利用者の方にとっても前向きな姿勢や意欲につながっているということも見られた。	利用者の方にとっても前向きな姿勢や意欲につながっている。利用者の方もその関係者の方たちに再会する際に、一瞬で笑顔になったり自ら歩み寄る姿もありました。この取り組みで利用者の方の安定や生活力を上げる力があんなにあるんだなと感じました。利用者の方が日常を楽しみながら活動をしたり、ありのままを大切にしながら支援していきたい

# 支援員における変化のストーリー 6/7

## ”その他” におけるエピソード①

きっかけ	気づき	変化内容
	<p>利用者がアーティストさんに見えてきた。</p>	<p>福祉施設は閉鎖的なところもあり地域連携は非常に難しいが、県や市の行政に「こういうことをやっています。使って」と営業活動をしてみたりした。福祉関係以外のセミナーなども、私たちには敷居が高いと思っていた日本橋のアンテナショップのセミナーに話を聞きに行ったりして、前のめりなチャレンジ精神が高まったと思う。</p>
<p>アート活動に対して他の支援員さんは関心が薄かったが、神戸フォントに参加し、デザイナーさんの手が入り企業さんまで繋がるという仕組みが他の支援員さんにもわかりやすくグッズを作るとか展示会に出すなどイメージがしやすくなった。</p>		<p>今まで関心のなかった支援員さんが「これフォントに使えるかな」「この人の絵は面白い」と私たちに持ってきてくれるようになった。そして、普段から絵や文字を書かない利用者さんも、書いてみようかなと試してみたり、みんなでやってみようという雰囲気変わった。また今までは好きに描いたものを作品展に出すだけだったものが「仕事」の形になったことでテーマの伝え方などを考えながら支援するようになった</p>
<p>アートを活用させてもらう時に、そのアーティストさんのことを知らないとならない</p>	<p>表面上に書かれたものだけではなくその人の人となりを知っていくという課程が事業に組み込まれていことがそれが大きなメリットと気づいた。</p>	<p>それが地域連携とか事業所間の横のつながりになるのかなと思う。事業所間の流れができるようになって、これまではちょっと会うことはあっても一緒に何かすることはなくて、本当に共用できること、横でできることはご当地フォントの面白いところだと思う。</p>
<p>今までも創作活動をメインにする事業所であったが、ご当地フォントに参加し、来客や外からの視点が加わった。</p>		<p>利用者さんも「この人が来るのは特別」と感じ取るなどして、現場の空気感が変わった。普段の職員の対応で生まれる作品とはまた違う作品がすごく生まれたことが印象的だった。見えていなかった景色が見えた感じがすごくした。</p>
<p>今回、石倉というテキスタイルを作ったが、石倉とは全く関係のない絵を、デザイナーが「この色味がいい」と言って、それを並び替えて石倉っぽくしてくれた。</p>	<p>デザイナーさんが入ることで、キレイな作品を作ることが重要ではなく、もっと自由でいいと思えた。</p>	<p>今までは作品に対して商品価値や社会的な評価に繋がるという視点が弱かったが、「子供の作品をこう見せたらもっと素敵になるのではないか」とか「こう表現したら次使ってもらえるのではないか」とか、次の展開を自分の中に描けるようになった。自分が作ったものだと、ただ見せるだけでなく「こんなふうに見える」「こういうエピソードがあって頑張っている」などと、よりPRに力を入れられるようになった。</p>

# 支援員における変化のストーリー 7/7

## ”その他” におけるエピソード②

きっかけ	気づき	変化内容
最初は皆が手探り状態で戸惑いながら活動していた部分があるが、年数を重ねるごとにだんだん施設職員としての役割は「こういうことかな」とわかってきた。	利用者についてよくわかっている立場からわかっていることを提示するだけでなく、学生さんや企業の人、お客様に対しては「こういう一面もこういう一面もあって」といろいろな面があるということを見せていくことが私たちに求められていることなのだとわかってきた。	
自分自身コミュニケーションが得意な方ではないが、学生さんなどなかなか関われない人と一緒にお仕事させてもらえたことが、印象に残っている。		シブヤフォントのフォント作りやデザインを通して、他の施設や利用者さんとも自分からコミュニケーションが取れるようになった。「このデザイン素敵だね」「この人が描いたんだよ」「こういうものに使われているんだよ」と教えてくれたりする。それによって世界が広がり、「こういうやり方もあるんだ」と思ったりしてワクワクする。自分を超えられるようにしたいという気持ちが強くなっていると思う。
ご当地フォントに参加したこと。障がい者の方々の作品を発信できる魅力的な取り組みだと思う。	当事者だけでなく、デザイナーや他の関係者の方々と作品を作っていくプロセスが新しく、可能性を感じた	周囲の人を巻き込んでいく取り組みを、まずは身近から、どんどん発信していこうと思えた。
外部からデザイナーがワークショップに入ってもらえたこと	施設内の職員が支援から社会発信までを行うことが大切だと思ってきましたが、利用者さんや職員の目標や願いを叶えるためには、専門的な方や外部の方の力を借りることで、それぞれに役割があることを知りました。	結果的に利用者さんの作品が世に出て評価され社会の中で必要とされることにつながるので、より良い結果を生むためのプロセスを意識するようになりました。
百万石フォントは自治体、県内在住デザイナー、企業、ポレポレが連携し制作されました。最初は互いに遠慮というか、知らないが故の距離みたいなものも感じましたが、ポレポレメンバーの作品がデザイナーさんの創作意欲を掻き立てていくようで、どんどん距離はなくなっていました。	完成したフォント、パターン。そして活用された傘が会場に展示されたのを見ると、感動しました。フォント、パターンは社会にとって可能性のタネだと思います。各作品のインパクトもストーリーも使用する人に想像を促し、新しい商品等になる。	ボランティアや寄付などの「してあげる」が多かったが、ご当地フォントの取組みを通して制作だけではなく色んな一緒にする”を模索するようになった。完成品を販売して終わりではなくて共創が広がっていく感じが好きです。

## シブヤフォント・ご当地フォントに関わった方々の変化

---

企業・プロボノ等

# 企業・プロボノ等における変化 アンケートシート

Q. 「シブヤフォント」・「ご当地フォント」に関わったことで、あなたご自身の心理的な変化や、日常生活や仕事において、新たに行動するようになったことはありましたか。どのような変化があったか、その理由などをご自由にお書きください

● 寛容力が磨かれ深まった気がします

● これまでも社会的な意義ある活動には賛同すべしという常識的な範疇での認識はありましたが、とても豊かなイメージをもって捉えるようになった

● 障害のある方のアートの見方が変わった。もっと世にたくさん送り出したいと思った。

● 個性や特徴であることを認め、人と人として接することができるようになったし、健常者同士であったり、成功・失敗に一喜一憂する人たちとの接点において、広い心を持てるようになった。

● 障がいのある方が作成したアートを見るようになったり、作成されたものを購入するようになった。

● 乙武洋匡さんが、「僕のことを、障がい者だと思うか？」と、成田 悠輔さんと、ひろゆきさんに、聞いているyoutube動画を見たことがある。ひろゆきさんは、「でも、乙武さんの場合、生まれつきだからなあ・・・」と言っていた。障がいも個性だと言わないでくれ というサムネタイトルの動画も記憶にある。何をさして 障がい とするのかも、それぞれ時と場合によって、文脈によっても定義がかわる。ダイバーシティ、インクルージョンという社会課題から、制度としてはどうあるべきなのかとか、制度の決め方の 1つとして存在する多数決は正しく機能しているのか、とかいったことも疑問に思うようになった。ネガティブケイパビリティとか、問いのたてかた、といったことにも興味を持つようになった。つまりは、視野が広がったということなのかと思います。

● 弊社ロゴをシブヤフォントにすることで、仕事へのプライド、モチベーションがより高くなりました。かっこよくておしゃれなので！

● これはできない、と簡単に決めることがなくなった。やりたいと思っていたことは、やってみるのが良いと思った。少しずつ「行動」に移していると思う。

● 障がいに関する学びをするようになったこと

# 企業・プロボノ等における変化 アンケートシート

Q. 「シブヤフォント」・「ご当地フォント」と関わったことで、障がいのある人に対する考え方、印象に変化がありましたか

👤 これまでも社会的な意義ある活動には賛同すべしという常識的な範疇での認識はありましたが、とても豊かなイメージをもって捉えるようになりました。

👤 どう接すれば良いかわからない人ばかりだと思っていたけどそうでは無かった。

👤 あまり関わる機会がなかったため、怖い、何を話せばいいかわからないという印象があったが、一緒にワークショップに参加してみると、そのようなことは全くなく、体験を共有できたから

👤 直接対話をし、触れ合い、相手を知ることで、これまで「知っていた」こととは、まったく異なることを知ったから

👤 シブヤフォントに出会うまでは障がい者アートの理解がほとんどなかった。加えて、実際の制作現場の見学や障がい者との交流を経て、みなさん本当に個性がありいろんな発想があり作品は個性的だと気付かされました。

確かに、自分の意見を伝えるのはうまくいかなかったり、苦手だったりするけど、逆にいうと誰だって苦手なことはある。ということで、結論としては、メンバーの皆様を非常に身近に感じるようになりました。

👤 怖さがなくなった

👤 予想以上にひとりひとり個性と意思を持っていること

👤 好きや個性をアートを通して知ることができ、言葉を使わないコミュニケーションが出来たように感じたから。その人が自分を表現するものから、コミュニケーションを取ることができたから

👤 必要な動線に必要な配慮があれば、工夫次第で予想以上の効果を発揮でき、一人一人から全体の生産性にもつなげられる。誰も思いつかないようなことがアート活動を通して生まれ、アートになる瞬間がある。クオリティを変わず作り続けられる姿勢は、アーティストだと思った。

# 企業・プロボノ等における変化

※アンケートの中から代表的なコメントをピックアップして記載

## 関わる前

TVのニュースで活動を知った

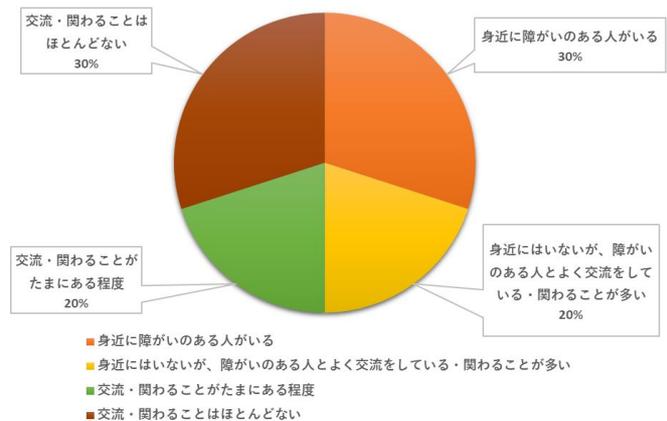
たくさんの賞を受賞され、次々に新しいことに取り組まれていることに刺激をもらった

正直なところ以前はもう少し陰湿なイメージがあったが、そのイメージが大きく変わった

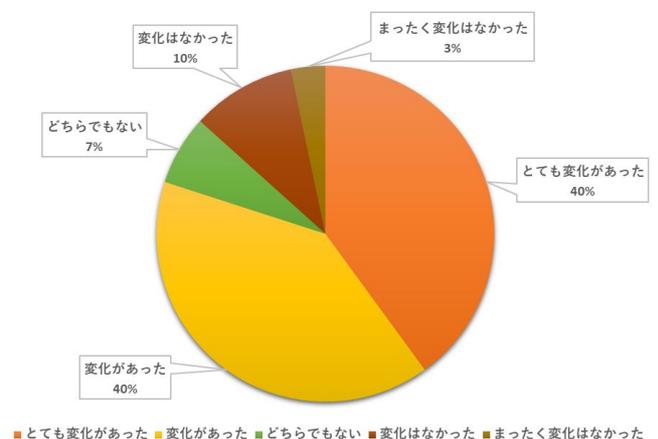
障がい者支援施設や作業所をとても身近に感じるようになり、障がい者作業所でコーヒーの焙煎をしてみようと思わせるきっかけの一つになった

障がい者支援施設にコーヒーの焙煎をすることを提案した

## 参加前の障害者との関わり

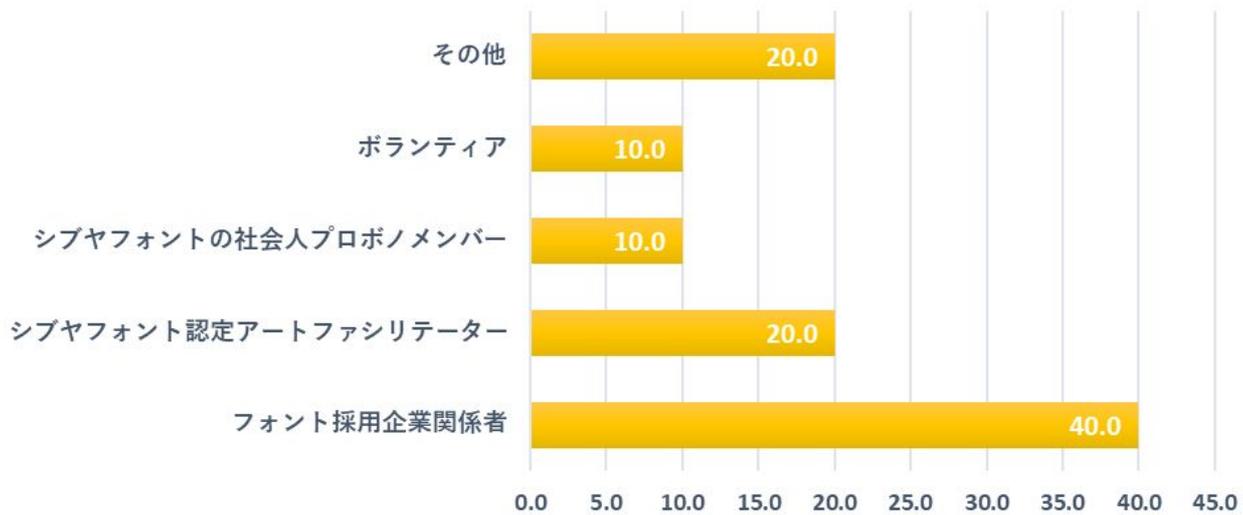


## 障がい者への考え方、印象変化

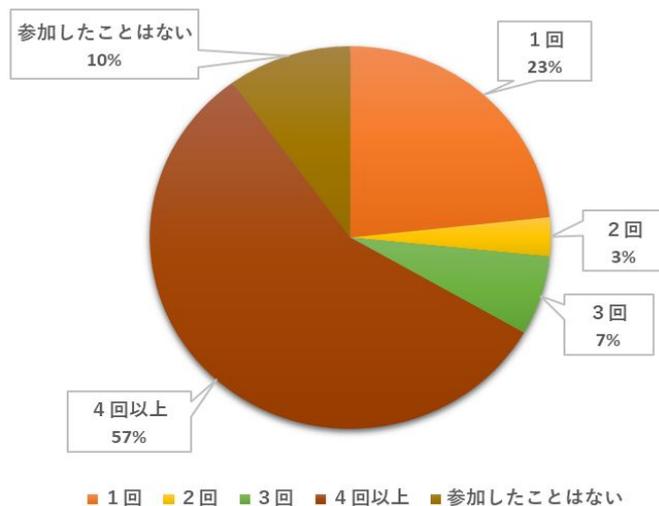


# 企業・プロボノ等における変化

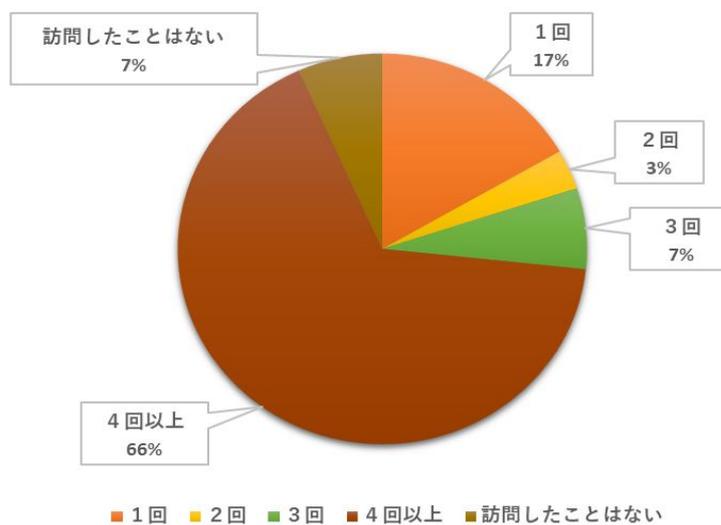
## ◆活動における立場



## ◆「シブヤフォント」・「ご当地フォント」のイベントへの参加の有無



## ◆作業所への訪問の有無



# 企業・プロボノ等における変化のストーリー 1/4

”障がい者のイメージが変わった／障がい者との接し方が変わった ”  
におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
多くの人が協力して作り上げる仕組みがうまく出来ていると思いました。	どう接すれば良いかわからない人ばかりだと思っていたけどそうでは無かった。	障害のある方のアートの見方が変わった。もっと世にたくさん送り出したいと思った。
	あまり関わる機会がなかったため、怖い、何を話せばいいかわからないという印象があったが、一緒にワークショップに参加してみると、そのようなことは全くなく、自由な発想に驚かされた	障がいのある方が作成したアートを見るようになったり、作成されたものを購入するようになった。
新作フォント&パターンの発表会に参加	障がい者アーティストのみなさんと学生さんの協働に感銘を受けた。アーティストの皆さんの作品に対するこだわりやプライドがとても強いことがわかり感動した。	正直なところ以前はもう少し陰湿なイメージがあったが、そのイメージが大きく変わった。
	実際の制作現場の見学や障がい者との交流を経て、みなさん本当に個性があり いろいろな発想があり作品は個性的だと気付かされました。	メンバーの皆様を非常に身近に感じるようになりました。 他の「障がい者アート展や催し」に積極的に行くようになったり、作品を購入したり、地元の作業所にも興味を持つようになりました。
シブヤフォントを通じて、たくさんの事業所で働いている職員のみなさんと仲良くなれたこと。 いろいろなイベントに参加させてもらう中で、いつでもみんな楽しそうにシブヤフォントに関わっていること。	シブヤフォントという共通の話題を通じて会話をしてみると、障がいのある人、ない人どちらも同じように楽しく会話ができ、障がいのある人への関わり方の認識が刷新されたので	障がいのある人の生活、それを支えている人の生活をよりよくできないだろうかとか、もっと知ってもらうにはどうしたらいいのだろうかを考えるようになった
フォントの制作活動を見せてもらった際、アーティストさんは生き生きと楽しそうに説明してくれた	障がいといっても、一人ひとりの特性は全員違うことがわかったから。	障がいのある方と関わる時に、変に構えなくなった。

# 企業・プロボノ等における変化のストーリー 2/4

”活動をもっと広めたい、知ってもらいたいと思うようになった ”  
におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
多くの人が協力して作り上げる仕組みがうまく出来ていると思いました。	どう接すれば良いかわからない人ばかりだと思っていたけどそうでは無かった。	障害のある方のアートの見方が変わった。もっと世にたくさん送り出したいと思った。
デザインを通して、シブヤフォントさんの話題を話すことができること。		シブヤフォントを使ったデザインを台紙にしているので、シブヤフォントさんを紹介する機会が増えたこと。
「シブヤフォント」に関わったこと		業務において障がい者をより意識するようになり、ご当地フォントを含め、今後も市区町村単位で取り組みを広げるきっかけがないかアンテナを張っています。
渋谷区役所にて「シブヤフォント」を使用したグッズの展示を拝見した	渋谷区役所内で見て良いなと思った	仕事(企画)の参考にしたり、自分のクライアントに提案しました。共同代表の※※様がいつもとても協力的なので、もっと「シブヤフォント」を広める取り組みを考えていきたいと思っております。
製品化に向けて様々な作業があるが、利用者さんごとに異なっているスキルを理解し作業分担することが大変だった。ただ最終的な製品が出来上がった時は、皆さんの努力の結晶であると感じ感慨深いものがあった	それぞれの方がもつ障がいや、困っていることが様々であることができた	シブヤフォントに参加している作業所以外の作業所にも連絡を取り、新たな取り組みができないか等行動するようになった
弊社ロゴに使用している「ヒーローフォント」作者(アーティスト・学生)と直接交流した	直接対話をし、触れ合い、相手を知ること、これまで「知っていた」こととは、まったく異なることを知った	クライアント企業等への手土産は、シブヤフォントに参加する社会福祉所が制作する商品を積極的に購入するようになりました。
対話型のアート体験(正式名称が分からず……)に参加して、他の方との意見交流が出来たこと。作者の意図やデザイナーの思いを正解と捉えず、色々な方の感性を大切にしていた。	好きや個性をアートを通して知ることができ、言葉を使わないコミュニケーションが出来たように感じた	職場でもシブヤフォントを使うことができないか、検討中である。(パンフレット作成・名刺作成など)
とやまふおんと以後に、本格的に事業所がアート活動の時間を取り入れたり、外出コースに他の事業所の展覧会などを取り入れるなど、アートを通じた外との接点づくりに積極的になった		富山県内で、ご当地フォントに関わる事業所を増やし、「とやまふおんと」のブランド力を高めることで県内企業などとのコラボを広げたいと考え、その活動を継続している。
シブヤフォントを通じて、たくさんの事業所で働いている職員のみなさんと仲良くなれたこと。いろいろなイベントに参加させてもらう中で、いつでもみんな楽しそうにシブヤフォントに関わっていること。	シブヤフォントという共通の話題を通じて会話をしてみると、障がいのある人、ない人どちらも同じように楽しく会話ができて、障がいのある人への関わり方の認識が刷新されたので	障がいのある人の生活、それを支えている人の生活をよりよくできないだろうかとか、もっと知ってもらうにはどうしたらいいのだろうかと考えるようになった

# 企業・プロボノ等における変化のストーリー 3/4

”障がい者理解や多様性の視野が広がった、考えが深まった”  
におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
		障がいとは何か、とか、合理的配慮とはどういうものか、など、考えるようになった。何をさして 障がい とするのかも、それぞれ時と場合によって、文脈によっても定義が変わる。ダイバーシティ、インクルージョンという社会課題から、制度としてはどうあるべきなのかとか、制度の決め方のつとして存在する多数決は正しく機能しているのか、とかいったことも疑問に思うようになった。
イベントでの当事者の方の生き活きた笑顔を見れるなど、様々な関係者が関わり、皆が取り組みをポジティブに捉えていること		障がいは、誰もが持っている個性の一つであり、常にポジティブにとらえるべきものと、障がい当事者の方々との交流も通じ、従来以上に考えるようになりました。
障がいのある子ども達に対話型アート鑑賞をした時、子ども達は会話がスムーズに出来なくとも自分ができる事をで最大限活用して感想や考えを伝えようとしてくれました。彼らのそのあり方はコミュニケーションするとはどういうことなのか、原点から見直すきっかけとなる経験となりました。	人と関わる事の大切さや人が持っている可能性に気づかされました。	人は多くの可能性を秘めていると考えるようになり、他者理解も自己理解もこれまでの概念を超えて少しずつ深まっていると思います。豊かな人生とはどのような人生なのか、家族で話しをするようになりました。
施設に行ってアート制作活動をともにしたこと。たくさん話しかけてくれたり、自分が話すことに恥ずかしながらも一生懸命リアクションをしてくれることに、自己肯定感があがった。		個性や特徴であることを認め、人と人として接することができるようになったし、健常者同士であったり、成功・失敗に一喜一憂する人たちとの接点において、広い心を持てるようになった。

# 企業・プロボノ等における変化のストーリー 4/4

## ”その他” におけるエピソード

きっかけ	気づき	変化内容
直接シブヤフォントと関係することではないですが、シブヤフォントのつながりで ※※さんが運営する作業所フレンドに伺ったときのこと。 ※※さんから話をいろいろと伺っているときに、その輪に入りたそうにしている利用者さんがいらっしゃいました。この人は自分と交流したいのだと直感的に感じて、よそ様の場所なのに「よろしかったらどうぞ」とその方に席を勧めたのです。直感はずりでした。そういうときに相手とつながった、コミュニケーションができたとうれしくなりますね。		結局その方は夢育で活動に来てくれることになりました。
弊社ロゴをシブヤフォントにした		かっこよくておしゃれなので仕事へのライド、モチベーションがより高くなりました
	あまり関わる機会がなかったため、怖い、何を話せばいいかわからないという印象があったが、一緒にワークショップに参加してみると、そのようなことは全くなく、自由な発想に驚かされた	障がいのある方が作成したアートを見るようになったり、作成されたものを購入するようになった。
ご当地フォントプロジェクトが始まった		渋谷区だけでなく全国の同じ思いを持った人たちと交流が広がった。
最初はまゆつばめいた話と感じていたであろう保護者もアートと関わる中で、積極性が増していくのが目に見えて感じられた。		保護者が自主的に障害者アートに関する研修会を開くなどのことがあった。
依頼したデザイナーははじめて障害者と接し事業所に入った。	(デザイナーは)利用者との触れ合いが本当に新鮮で楽しかったとのこと。	(デザイナーは)それ以後も機会を作っては事業所を訪れ、共働に取り組むようになった。
当事者さんが書いた絵をデジタルに起こし、デザインして、例えばこんな商品にもできますね。と商品サンプルを見せたときの嬉しそうな声や顔は今でも覚えている。		(当事者が)アート活動を何回も重ねていくことで、もっと描きたい、今日も時間が足りない。と前のめりな意識に変わっていくこと。
ユーアイファクトリーにて、自分の作業場での作品作りに、自然と向き合っていたこと。活動は習慣となっているかもしれないが、その日その場にある空気感や色々を自然と表現されていたと感じた。	必要な動線に必要な配慮があれば、工夫次第で予想以上の効果を発揮でき、一人一人から全体の生産性にもつなげられる。誰も思いつかないようなことがアート活動を通して生まれ、アートになる瞬間がある。	これはできない、と簡単に決めることがなくなった。やりたいと思っていたことは、やってみるのが良いと思った。少しずつ「行動」に移していると思う。
普段あまり表情の変化がないアーティストさんがいるのですが、自分の作成したシブヤフォントデータが商品化されているのを見て笑顔を見せていました。そのアーティストのお母さんも普段なかなか見れないお子さんの笑顔にとっても驚き、喜んでいたのが印象的で今でも忘れられない思い出です	とてもおとなしく口数が少ない印象だったメンバーさんが、シブヤフォントでアーティストとして活動している時はとても生き生きして自分の作品の特徴などを楽しそうに話している姿を見ることができ、新たな一面を発見することができました	
名刺交換の際に必ず「素敵なデザインですね～」と反応があります。シブヤフォントにはデザイン性だけでなく、作品ひとつひとつにストーリーがあるのでとても話が盛り上がりやすいです。	もともと業務をする上でデザイン性など意識したことが無かったのですが、シブヤフォントに携わるようになって同じ情報でもデザイン性が高い方が注目度があがるということを実感するようになりました。	デザインの力を意識するようになってからは、チラシや広報物を作成する際にどうせなら素敵なものを作りたいという意識が働くようになりました。(質問への答えになっていなかったらすみません...)

## 調査結果(4)

### 先端事例における障害者のアンケート調査

---

実施方法: アンケート

対象 : ありがとうファーム利用者

協力 : ありがとうファーム

# 先端事例における障がい者の変化のストーリー

”ありがとうファームの関係者・福祉関係者以外の方々との交流を通して、自分自身の気持ちや考え方に変化” におけるエピソード

エピソード	きっかけ	変化内容
<p>コラボさせて頂いている企業様との企画のチラシデザインをさせて頂きました。外部の方にデザインを大変ほめて頂き、それを通してもっとデザインの勉強をしようと思うようになりました。 色んな要望に応えられるようになりたいなと思い、今がんばっています。</p>	<p>コラボさせて頂いている企業様との企画のチラシデザインを担当し、外部の方にデザインを大変ほめて頂いた。</p>	<p>もっとデザインの勉強をしようと思うようになりました。 色んな要望に応えられるようになりたいなと思い、今がんばっています。</p>
<p>(レンタルアートの)納品へ伺う事で、気持ちの変化や考え方が変わることが何度かありました。 社長さん、代表の方は私がどの様な気持ちや状況で絵を描いているか聞いて下さるし、ご自身の考え方(体験)を聞くと、制作意欲がわき、前向きな気持ちになりました。</p>	<p>(レンタルアートの)納品へ伺う事で、気持ちの変化や考え方が変わることが何度かありました。</p>	<p>社長さん、代表の方は私がどの様な気持ちや状況で絵を描いているか聞いて下さるし、ご自身の考え方(体験)を聞くと、制作意欲がわき、前向きな気持ちになりました。</p>
<p>私は飲食店舗で働いています。ですが、以前は人と交流する事や関わる事が苦手でした。ありがとうファームに入社してからは、色んな年代の方と関わる事によって自分の気持ちに自信がつき、今では飲食チームで接客や色んな事にチャレンジしてみようという考えになりました。</p>	<p>私は飲食店舗で働いています。ですが、以前は人と交流する事や関わる事が苦手でした。</p>	<p>ありがとうファームに入社してからは、色んな年代の方と関わる事によって自分の気持ちに自信がつき、今では飲食チームで接客や色んな事にチャレンジしてみようという考えになりました。</p>
<p>接客時、こちらからお客様に笑顔で話しかけることで、お客様が買い物時以外でもスタッフとあいさつや会話をするのを楽しみにしていると言われ、地元の方との交流を自分も楽しもうと思いました。</p>	<p>接客時、こちらからお客様に笑顔で話しかけることで、お客様が買い物時以外でもスタッフとあいさつや会話をするのを楽しみにしていると言われた。</p>	<p>地元の方との交流を自分も楽しもうと思いました。</p>
<p>様々な企業様と交流するうちに自分ももっていた偏見や色メガネで見ていた。世の中が生きるのが楽しくなりました。例としては、グリーンハーツをやっていて、リーダーとしてちゃんと仕事と両立させねば。と思うようになり、自信にもつながっています</p>	<p>様々な企業様と交流するうちに自分ももっていた偏見や色メガネで見ていた。</p>	<p>世の中が生きるのが楽しくなりました。例としては、グリーンハーツをやっていて、リーダーとしてちゃんと仕事と両立させねば。と思うようになり、自信にもつながっています</p>

# 先端事例における障害者の変化

## アンケートシート 1/2

Q. ありがとうファーム以外(福祉関係者以外)の方々との交流を通して、自分自身の気持ちや考え方に変化はありましたか？

👤 こども商店街の活動を通して子供と関わるのがあまりなかったので、いい経験になりました。私は子供と一緒に仕事ができすぎてすごく楽しかったです。子供の明るさと笑顔が見れて私はすごく幸せな気持ちになりました。

👤 お客様が「おいしかったよ」とか「ごちそうさま」と言って帰られるとき、やりがいを感じます。飲食業も楽しいなと感じるようになりました。

👤 こども商店街の活動で店にきてくれた子供と話す機会がありました。以前は子供と触れ合う機会がなかったので、子供の事がよく分からなかったのですが、話をしてみて、とても明るい気持ちになったので、以前より好きになりました。

👤 グリーンハーツで活動させて頂いていましたが、歌う事で様々な人とつながれる・感動できるという事を知りました。一緒に歌ってくださった皆様を通じて、今は以前よりも自分の喜び・感動をより感じられる！それが今の自分の支えとなっています。

👤 接客していてお客様から、丁寧だねと言われたので、自信がついた。

👤 グリーンハーツの活動で、外部の方にも声を掛けて頂ける機会が出来て、ちょっと自分に自信がなかったけど、優しく声を掛けてもらえる事や色々な方々に応援してもらえる事で自分自身の頑張ろうという前向きな気持ちにつながっていて、本当に有り難いです。今後はハブラボでも少しずつ、子供たちと触れ合う機会が出来るのが、楽しみです ♪

👤 コラボさせて頂いている企業様との企画のチラシデザインをさせて頂きました。外部の方にデザインを大変ほめて頂き、それを通してもっとデザインの勉強をしようと思うようになりました。色んな要望に応えられるようになりたいなと思い、今がんばっています。

👤 こども商店街で子供たちと一緒に「いらっしやいませ」と声かけしたりして、子供とコミュニケーションが取れ、社会の繋がりがりや経験を経て、実感することができた。

# 先端事例における障害者の変化

## アンケートシート 2/2

Q. ありがとうファーム以外(福祉関係者以外)の方々との交流を通して、自分自身の気持ちや考え方に変化はありましたか？

飲食店舗(コチャエ)での接客できるようになったし、親からも出来ないと思っていました。知らない人でも色んな人もいると思いました。同じ人間同士で仲良くできましたし、また交流もしてみたいです！

こども商店街を通して、他のメンバーの活躍を見て、自分自身の励みになりました。

私は、ハブラボで子ども達と工作をしたり、触れ合ったりしています。その活動の中で、色々なことを学びました。その中で自分にとって大切な出来事はたくさんあります。たとえば・・・やさしさに触れたり、刺激をもらったり、たまに、辛いなーとか、疲れたなーって思うけど、それも全部私に必要な宝物なので、日々色々なことが起きることを一つ一つ楽しみながら頑張りたいと思います。それが私にとってステキなことだから・・・

(レンタルアートの)納品へ伺う事で、気持ちの変化や考え方が変わることが何度かありました。社長さん、代表の方は私がどのような気持ちや状況で絵を描いているか聞いて下さるし、ご自身の考え方(体験)を聞くと、制作意欲がわき、前向きな気持ちになれました。

HUBLabを中心とした多くのワークショップをしてきました。その中でお客様として来られた方や関係者の方と接していて、自分が「障がい者である事の差別」をあまり感じた事はありません。障がい者である事で不快感を感じた事がないのです。その反面、例えば、ありがとうファームがグループホームを建てる際、「障がい者の住む施設が出来ると何かあったら困る」といった差別、偏見が実際にまだまだある事を耳にします。障がい者と健常者の壁はどこにあるのでしょうか？いつ、どんな状況で発生するのでしょうか？とても疑問に思うし、その壁を無くしていきたいと思っています。

相談にのってもらったり、支えてもらったりしているから毎日仕事に来れています

# 先端事例における障害者の変化 アンケートシート

<p>Q. 支援対象者(障がいのある人)に心理的な変化が生まれたと思うとお答えの方にお伺いします。どのような変化が生まれたと思いますか</p>	<p>Q. 先ほどお答えいただいた取り組みについて、支援対象者(障がいのある人)が、地域や社会の人と交流する意味はどのようなことだと思いますか。お考えをご自由にお書きください</p>
<p>自分の創作活動が社会的(公募展入選入賞)に認められたことによる自己肯定感が生まれた。 自分のアートが企業に有料で使用されたことにより収入になった、アート活動が仕事になった。 家族や施設職員から誉めてもらい、自分も嬉しかった。</p>	<p>多様性理解やインクルーシブ社会という言葉をよく耳にするようになったが、特別支援学校(制度分離教育)や福祉の制度が整ったことにより、同じ地域に暮らしているながら障がいのある人と健常者と呼ばれている人が、つながる機会や場所が殆んど無くなってしまった。 人間という生き物は、知らない事や分からない事に対して不安や恐れを持つ生き物である。 現在の行政の仕組みでは、障がいのある人と地域で暮らす人が出会う、つながる仕組みが殆んどありません。 インクルーシブ社会になるためには、そうした接する機会、相手をポジティブに理解する機会をなるべく多く創出しなければ、障がい者理解につながらない。 教科書や社会常識だけでは、多様性理解のある地域社会にはならない。 障がい者と地域で暮らす人々が、ポジティブに理解する機会を継続的に生み出すことにより、始めて相互理解が生まれると考えています</p>
<p>「自分がモデルである」と認識できる子は、自己肯定感や自信の向上に繋がり、リハビリを頑張るようになったなどの目に見える変化があったようです。 そうではない子も、多くの人から名前を呼ばれ、たくさん褒められ、あたたかな目を向けたもらえる事で、保護者すらも難しいと思っていた事(何もないスタジオでの撮影など)も数十分に渡って楽しく参加できた。</p>	<p>社会の人:今まで知らなかった(知る機会がなかった)障害に実際に触れる事で、障害者に対する恐怖心や戸惑いの払拭だけではなく、「可愛い」「癒される」といったポジティブなものに変わる。→多様性理解、視野の拡大、行動力向上、やさしい社会づくりへと繋がる</p> <p>障害児:この子たちは特に変わらない(それがこの子達のすごい所。常に自分は自分。)</p> <p>障害児の保護者:「迷惑なのでは」「変な目でみられるのでは」という恐怖心が緩和される。→障害児を連れて社会に出やすくなる、経済的に貢献、障害理解のための行動と意欲の向上、結果として障害を恥ずかしいと思わなくなる(堂々と生きられる)</p>
<p>社会との繋がり、人から必要とされる事が生まれ自己肯定が生まれた</p>	<p>障がいあるなしにかかわらず固定概念を取り払うこと</p>
<p>ありがとうファームは閉じられた世界だと、今まで思っていた。理解を得ることの楽しさを知った。イベントで詩を読んだのだが、それをきっかけにパートナー企業になってくれたなど、人に影響を与えられたこと。———子供商店街(子供達が売り子にもなり、メンバーが仕切って進める)、メンバー小学校の先生になることもやった。生活困窮者の悩み、子供に楽しい思い出を作ってあげられなかったのに対して、思い出づくりとして、子供商店街をやった、子供に対する体験機会を提供した。ハブラボという子供たちと一緒に、廃材をアート素材に生まれ変える。(マネタイズは、それぞれの事業ごとで、研修などで受託、アートレンタルなども)</p>	<p>自分の体調のことだけでなく、プログラムを考え、多くの人に来てもらうことを考えることが、前向きになってくる。誰かに喜ばれる、子供から、責任感、やりがいを持って取り組むように、メンバーがなってきた。表情が明るくなったり、前向きになったり。誰かから、ありがとうの関係が続くと、元気になる。</p>

# 先端事例における障害者の変化 アンケートシート

<p>Q. あなたが運営、もしくは所属する団体での共生のための取り組みはどのような経緯で始められましたか。あなたがわかる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください。</p>	<p>Q. 現在取り組まれている共生のための取り組みを進める中で直面した課題や、困難なことは何かありましたか。また、どのような方法で克服しましたか。あなたがわかる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください。</p>
<p>大学での研究のテーマが、障がいのある人の創作活動を通しての社会参加と収入支援でした。その研究の中から、アール・ブリュットやアウトサイダーアートに関して社会的な関心は高まっているが、一般の人は原画を見たことがない、直接障がいのあるアーティストに出会った事がないのが殆んどであることが分かってきた。障がいのある人と健常者と言われる人が知り合う、出会う場が必要だと考えた。</p>	<p>一般の人は、共生社会や障がい者理解については、頭では理解しているが身近で障がいのある人との接点がない、そうした理解を楽しく生み出すための仕組みづくりや活動が必要だけど、活動資金をどのように生み出すのか？その仕組みをどうやって創出するのか悩んだ。現在の福祉の制度では、障がいのある人をサポートする仕組みやルールは整っているが、一般の社会や市民とつながる「関係人口」を増やす仕組みや制度が整っていない。★障がいのある人の創作活動を中心とした芸術祭を実施し、その運営を市民(地域住民)芸術祭として行うことにより、「関係人口」が自然に生まれる仕組みを考えた。なぜなら、障がいのある人の生み出すアートは本当に素晴らしいし、数年前にパリのポンピドゥーセンターが正式にコレクションすることを発表するほど、その評価が高まっている。可視化されたアートなら、その魅力的なアート作品をきっかけとして「関係人口」を継続的に生み出せると考えた。江東区の深川エリアを中心とした市民芸術祭を立ち上げ、その問題解決を生み出したいと考えた。</p>
<p>私の長男に重度の障害があり、「障害があっても堂々と生きられる社会をつくりたい」という想いで始めました。</p>	<p>企業からの理解を得られない。欧米では障害者モデルの起用がどんどん進み、そうする事で企業イメージや株価の向上に繋がるが、日本ではまだ「障害者を見せ物にしている」や、障害とお金の繋がりをタブー視する傾向が強いので、検討すらしてもらえない。(ですので、「企業イメージの向上」ではなく、どうしたら企業の課題をモデルで解決できるかをずっと考えていますが、まだ答えを見つけれずにいます。)</p>
<p>デザインは経済のためでなく人のために使われなければならないと考えたから</p>	<p>良かったと思ってやったことが必ずしも当事者、福祉関係者の喜びには繋がらない。しかしやらないよりやったほうが良い。それで喜んでくれる人がいる限り。</p>
<p>最初は、就Aからスタート。通常は郊外だったりするが、地域に開くことが大事だと、「仲間が多くいる方が良い」という考えがあった。創業者の仲間に、創業者の子供に知的障害がある。そもそも人には能力がある。それは社会につなげていかないといけない。</p>	<p>商店街の活性化＝創業者が、ここでよく遊んでいた。グループホーム建設の反対があった。町内会長に挨拶なし、事件が起きたらどうするか？川に落とされたらどうするか？「差別じゃないけど」という枕詞が気になった。「障害を持っている人たちの思いを知らない。だから怖いんです」という住民の声があったことが、印象的。生産性の壁はいつも感じている。アート事業って、アートに着目されつつある中、売上が伸びている。ただ、飲食は、なかなか難しい。限界がある。仕事の切り出し方も難しい。まだまだメンバーの活躍できる場所をしっかりと作りきれていない。何も、ありがとうファームにこだわる必要もない。他の会社でできることが生まれるのも良い。</p>

# 先端事例における障害者の変化 アンケートシート

Q. あなたから見て、この活動に関わった地域や社会の人に変化はありましたか。どのような変化があったか、どのようなことでも結構ですので具体的にお書きください。

- ★障がいのあるアーティストやご家族と会うことを楽しんでいる人や企業を数百人レベルで生み出せている。
- ★市民芸術祭としていることで、江東区民として障がい者理解やインクルーシブ社会を実現させるために行動変容を生み出した。
- ★社会貢献活動を地域が自主的に行っていることで、地域自慢にもなっている。地域に住むことへの自己肯定感にもつながっている。
- ★100年続く芸術祭にして、インクルーシブ社会の実現が自分事になっている。
- ★地域に住む障がいやご家族から大きな評価を頂いている。
- ★毎年数百万円を障がいのあるアーティストや福祉施設に支払っている。

「障害を知らない」から「知った」という変化が一番大きいように思う。その上で、「障害者≠劣」という認識に変化してきている。

関わることによって自分ごとのように考えてくれる

そんなに地域に関して、変化は感じていない。元からいい人たち。仲が深まった。フェスはじわじわ、メディアの取り上げ、長野県からYoutubeで見た人が、元気をもらった。

# まとめ

---

## アーティストの変化: 自信と誇りが芽生える

障がいのあるアーティストは、自分の描いた文字や絵がデータや商品になったことを通じて、「認められた」「嬉しい」「自分も社会に貢献できる」と感じるようになった。作品を通じて周囲とつながり、表現への意欲も高まっている。

## 学生の変化: 他者理解から共生意識へ

参加学生の多くが、障がい者を「一括り」ではなく「個人」として捉えるようになった。活動を通して、抵抗感がなくなり、福祉や多様性への関心が深まった。地元の福祉施設へ目を向けるようになるなど、行動にも変化が見られた。

## デザイナーの変化: 偏見が消え、視野が広がる

デザイナーたちは、制作を通じて「障がいの有無は関係なく、共に創る仲間」と感じるようになり、自らの視点や発想の幅も広がった。アートやデザインの仕事が、社会課題と接続することの意味を実感している。

## 支援員の変化: 福祉の価値と可能性を再発見

支援員は、利用者の意外な才能に気づく機会となり、日常業務の中でも可能性を信じてサポートする意識が強まった。他施設との連携や発信の意識も高まり、福祉の仕事への誇りや楽しさが増している。

## 家族の変化: 子の成長を実感し、喜びを共有

家族からは、「作品として認められたことで、子どもが誇りを持ち、自信と意欲が生まれた」という声が多く寄せられた。活動が家族にも喜びや希望をもたらし、家庭内での関係性にも良い影響を与えている。

## 企業・プロボノの変化: 視点が変わり、行動が変わる

企業関係者は「障がい者アートの力や魅力に驚いた」「関わりのハードルが下がった」と回答。活動への参加を通じて、寛容さや社会的視野が広がり、自社のブランディングや社会貢献への姿勢も変化した。

## 福祉の関係人口の拡大

活動に関わる人々の変化は、「福祉＝専門職だけの領域」という枠を超え、一般市民や企業、学生などが継続的に関わる「福祉の関係人口」の広がりに寄与している。これは地域社会全体の包摂力向上にもつながる。

## 共生社会への一歩として

シブヤフォント・ご当地フォントは、アートを通じて他者理解を育み、障がいの有無を越えて「一緒に生きる」実感をもたらす活動である。多様な立場の人々が共に変化し、成長していく「へんしん」のプロセスが、共生社会づくりの大きな一歩となっている。

---

障がい者とアート活動による障がい者理解と障がい者の自己実現の効果検証調査レポート

発行日：2025年4月28日

プロデュース：磯村歩

企画：磯村歩

調査：渋谷区、エム・アール・エス広告調査株式会社

構成：磯村歩、増田照子

発行：一般社団法人シブヤフォント

助成：日本財団

---